

法學士織田一著

債論完



東京博文館藏版

21238
國債論目錄

目次

- 第一章 緒論
- 第二章 國債ノ經濟社會ニ及ボス影響
- 第三章 國債ヲ起スノ場合ヲ論ス
- 第四章 非常準備金ヲ置クノ可否
- 第五章 非常ノ費用ヲ支辨スルノ方法
- 第六章 國債ノ區別
- 第七章 國債ノ募集法
- 第八章 國債借換
- 第九章 國債償還
- 第十章 各國國債ノ比較並ニ人民負擔ノ輕重

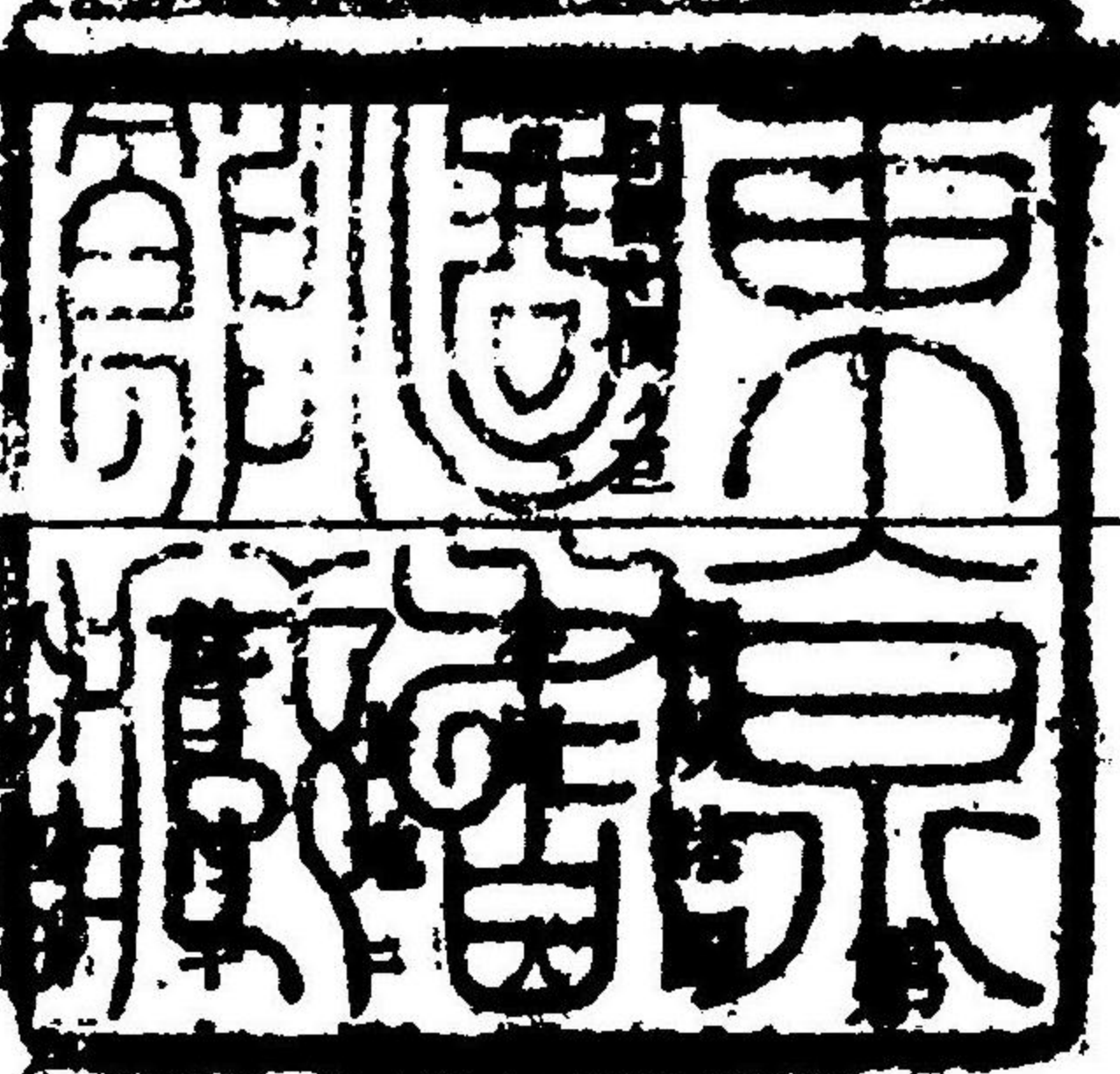
國債論目次終

國債論

法學士 織田 一

第一章 緒論

國債ヲ合算スレバ二百七十億圓ノ巨額ニ達ス之ヲ
 ニ配當スレバ每一人ニ付二十三圓ニシテ之ヲ各國
 當スレバ各一平方マイル(一マイルハ我十四町七間
 百二十二圓ノ負債ヲ有シ各國債ガ爲メ二年々其歲
 一乃至五分ノ一ヲ支出ス此巨額ノ國債ヲ調理シ各
 國ノ財政ヲ整理スルハ實ニ至難ノ業ニシテ是レ國債論ヲ講ス
 ルノ必要アル所以ナリ而シテ此國債ハ如何ナル時代ニ發生シ
 タルモノナリヤト云フニ其大部分ハ今世紀ニ於テ増加セラレ
 タルモノナリ即チ左表ノ如シ



各國主債ノ累年增加表

| | | |
|--------|------------|------------------|
| 千七百十四年 | 十五億圓 | 平和時代 |
| 全 九十三年 | 二十五億圓 | ナポレオン戰爭時代 |
| 千八百二十年 | 七十七億五千萬圓 | 平和時代 |
| 全 四十八年 | 八十六億五千萬圓 | 軍備時代 |
| 全 六十二年 | 百三十七億五千萬圓 | 米國南北戰爭普澳戰爭普佛戰爭時代 |
| 全 七十二年 | 二百三十億圓 | 軍備及事業擴張時代 |
| 全 八十二年 | 二百六十九億七千萬圓 | |

國債ノ増加セ
ル所以

此表ニテ明白ナル如ク各國ノ國債ハ實ニ千八百四十八年ヨリ頓ニ其増加ヲ致シ全年ヨリ八十二年ニ至ル三十四年間ニハ每年平均五億三千萬圓ノ國債ヲ増加シ遂ニ今日ノ巨額ニ達セリ何ガ故ニ各國ノ國債ハ斯ノ如ク増加シタリヤト云フニ各國政費ノ増加是レナリ有名ナル諸學者曰ク政務ノ増加ト之ニ伴フタク措テ之ヲ除セザルモ更ニ角第十九世紀文明ノ進歩ハ政務ノ増加ヲ促シ從ヒテ政費ノ増加ヲ來シタルナリ今左ニ每一人ノ國稅負擔高ヲ示サンニ

| | | | | | |
|-----------|--------|--------|--------|---------|-----|
| 千八百四十一年 | 五十年 | 六十年 | 七十年 | 八十年 | 九十年 |
| 英國 九圓五十錢 | 九圓 | 十一圓五十錢 | 十圓八十錢 | 十一圓六十二錢 | |
| 佛國 六圓九十八錢 | 八圓五十九錢 | 九圓八十七錢 | 十圓八十一錢 | 十六圓八十一錢 | |
| 普國 〇 | 三圓十錢 | 三圓六錢 | 四圓三十九錢 | 五圓廿九錢 | |

各國軍備擴張ノ情況

| | | | | | |
|----|--------|------|--------|--------|--------|
| 普國 | 二圓七十三錢 | 四圓三錢 | 五圓十六錢 | 五圓三十錢 | 六圓六十錢 |
| 伊國 | ○ | ○ | ○ | 七圓六十四錢 | 十圓廿二錢 |
| 澳國 | ○ | ○ | ○ | 九圓廿七錢 | 十一圓廿一錢 |
| 米國 | 一圓六十錢 | 二圓 | 二圓四十五錢 | 八圓 | 五圓三十四錢 |

右ノ表ニ由レバ英國ハ巳ニ千八百四十年前ニ巨額ノ政費ヲ要スルノ勢ヒニ進ミ爾後著シキ増加ヲ見ザルモ佛國普國及ビ米國ハ僅々此四十年間ニ於テ殆ンド三倍ノ増加ヲナシ其他ノ各國モ多少ノ増加ヲ見ルニ至レリ

歐リテ政費増加ノ原因ヲ尋ルニ軍備擴張及ビ政務ノ増加是レナリ今軍備擴張ノ情況ヲ示サンニ

| | | |
|----|------------------|-----------|
| 英國 | 兵數 十萬二千人 | 費用 七千五百萬圓 |
| 普國 | 兵數 十二萬二千人 | 費用 千八百萬圓 |
| 佛國 | 兵數 三十九萬四千三百九十九萬人 | 費用 九千九百萬圓 |
| 各國 | 兵數 三十九萬人 | 費用 六百萬圓 |

千八百五十年 全 六十年 全 七十年 全 八十年

英國 兵數 十萬二千人 費用 七千五百萬圓
 普國 兵數 十二萬二千人 費用 千八百萬圓
 佛國 兵數 三十九萬四千三百九十九萬人 費用 九千九百萬圓
 各國 兵數 三十九萬人 費用 六百萬圓

佛國ノ政費

| | | |
|----|------------------|-----------|
| 佛國 | 兵數 三十九萬四千三百九十九萬人 | 費用 九千九百萬圓 |
| 普國 | 兵數 十二萬二千人 | 費用 千八百萬圓 |
| 各國 | 兵數 三十九萬人 | 費用 六百萬圓 |

以上軍費ノ増加ハ列國間ノ競争ニ源由シ兵備擴張兵器改良ニ支出シタルモノナリ又政務ノ増加ハ一國共同ノ利益ヲ起スガ爲メニ官業ヲ増加シタルニ由ル今佛國ノ例ヲ取リテ之ヲ示サンニ (ハ我廿五錢)

| | | | | |
|---|---|----------|----------|----------|
| 司 | 法 | 千八百六十九年 | 企七十六年 | 企八十三年 |
| 財 | 政 | 二千四百萬フラン | 二千四百萬フラン | 千九百萬フラン |
| 司 | 法 | 三千六百萬フラン | 三千三百萬フラン | 三千五百萬フラン |

| | | | |
|---------|------------|------------|------------|
| 外 交 | 千三百萬フラン | 千百萬フラン | 千四百萬フラン |
| 内 務 | 六千萬フラン | 九千萬フラン | 六千八百萬フラン |
| 郵便及ビ電信 | 〇 | 〇 | 九百九十萬フラン |
| 教育宗教 | 七千四百萬フラン | 九千二百萬フラン | 壹億八千六百萬フラン |
| 美 術 | 千二百萬フラン | 七百萬フラン | 千六百萬フラン |
| 農 務 | 千二百萬フラン | 千八百萬フラン | 四千六百萬フラン |
| 公 共 事 業 | 一億一千三百萬フラン | 二億一千五百萬フラン | 五億七千九百萬フラン |

右ノ表ニ由レバ千八百六十九年ヨリ全七十六年ニ至ルノ七年間ニ六億一千二百萬フランヲ更全七十六年ヨリ全八十三年ニ至ルノ七年間ニ四億六千百萬フランノ増加ヲナセリ爾シテ其増加ハ公共事業教育農商務ニ支辨セラレタルヲ知ルベシ故ニ此ノ増加タルヤ軍費ノ爲メニ生シタルニアラスシテ一國公共ノ利益ヲ起ス爲メニ生シタルモノナリ以上ニ由リテ明カナ

文明ノ進歩ニ伴フ國費ノ増加

ル如ク今世紀ニ於テ文明ノ進歩ト共ニ國費ノ増加ヲ來シ國費ノ増加ニ伴ヒテ國債ノ増加ヲ來セシヲ知ルベシ今ヨリ後チ外ハ列國ノ競争ヨリ益々軍備ノ擴張ヲ促シ戰爭術ノ進歩ニ由リテ兵器軍艦ノ改良ヲ要シ内ハ一國公共ノ利益ヲ發達セシムル爲メニ急官業ヲ作興スルニ至ラバ國民ノ負擔ハ愈重キヲ加ヘ益國債ヲ増加スルノ必要ヲ生ズベキナリサレバ國債ノ事タル決シテ今日ニ終ルモノニアラスシテ將來ニ永續スルモノナリ國債ヲ研究スルハ實ニ今日ニ必要ナルノミナラス將來ニ益々其必要ヲ感ズベキナリ

又各國ノ歲計ヲ案スルニ國債ノ利子及ビ之ニ關スル費用ハ實ニ巨額ニシテ各國歲出ノ大部分ヲ占ム即チ左表ノ如シ

| 年 號 | 國 名 | 入 國 債 利 子 | 歲入ト國債利子トノ比例 |
|---------|-----|------------|-------------|
| 千八百七十五年 | 普 國 | 一億七千四百十五萬圓 | 千二百三十四萬圓 |
| | | | 七 分 |

各國國債利子

| | | | | |
|---------|-----|-------------|----------|----------|
| 全 | 土耳其 | 一億圓 | 七千萬圓 | 七割 |
| 全 | 西班牙 | 一億圓乃至二億二千萬圓 | 七億八千萬圓 | 六割五分乃至七割 |
| 千八百七十七年 | 英國 | 三億九千萬圓 | 一億四千萬圓 | 三割六分 |
| 全七十八年 | 佛國 | 五億五千八百萬圓 | 二億四千萬圓 | 四割三分 |
| 全八十七年 | 日本 | 七千九百九十萬圓 | 千六百三十八萬圓 | 二割 |

右ノ如ク各國歳入ノ二三割若クハ六七割ヲ國債ノ利子ニ支拂フモノニシテ各國ハ國債ノ爲メニ甚ダ輕カラザル負擔ヲ有スルモノト云フベキナリ斯ル巨額ノ歳出ヲ要スル國債取扱ノ方法其宜シキヲ得ルト否ヤトハ實ニ其國財政整理ノ上ニ至大ノ影響ヲ生ズ而シテ財政ノ整不整ハ實ニ國家ノ獨立盛衰ニ關ス埃及土耳其ノ如キハ外國債ノ爲メニ殆ンド其獨立ヲ失ヒ他國ノ願使ヲ受クルニ至レリ國債ノ事豈ニ輕ンズベケンヤ財政家豈ニ留心精慮セザルベケンヤ

國債ノ性質

夫レ國債ハ政府ガ債主ニ負フ所ノ負債ナリ政府ハ必ズ之ヲ償還スルノ義務ヲ有ス國債ハ利子ヲ支拂フベキノ負債ナリ故ニ政府ハ年々債主ニ對シテ利子ヲ支拂フベキノ義務ヲ有ス政府ハ國債ニ對シテ年々利子ヲ支拂ヒ且ツ之ヲ償還スルノ義務ヲ有スルハ甚ダ明白ナル道理ナリ然リ而シテ政府ノ負フ所ノ義務ハ其一國人民ノ負フ所ノ義務ナリ人民ノ納稅額ヲ増加スルノ結果ヲ生ズルモノニシテ人民ノ休戚ニ關スル大ナリト云フベキナリ故ニ立憲國ニ於テハ國債ヲ募集スルニハ議會ノ協賛ヲ得ルヲ以テ必要條件トス

普國憲法ハ第三百三條ニ曰ク「法律ニ由ルニ非レバ國債ヲ起スコトヲ得ズ」ト

日本帝國憲法第六十二條ニ曰ク「國債ヲ起スハ帝國議會ノ協賛ヲ經ベシ」ト

國債募集ハ間接ニ人民ノ負擔ヲ増加シ時トシテハ國家ノ存亡ニ關スルノ大事件ナルガ故ニ立憲國ニ於テ國債募集ノ手續ヲ鄭重ニシ議會ノ協賛ヲ要スルヲ、ナシタルハ誠ニ當テ得タリト云フベシ議會ノ職員タルモノ何ヲ以テ此重任ヲ全フスベキカ曰ク國債ノ性質ヲ研究シ國家需度ヲ計リ起スベキノ國債ハ之レヲ起シ償還スベキノ國債ハ之レヲ償還シ以テ財政ノ宜シキヲ得ルニアルノミ國債ノ下置ニ之ヲ併修セズノ可ナランヤ殊ニ近來地方自治ノ制行ハル、ニ從ヒ地方共同体ハ法人タルノ資格ヲ有シ國債ヲ起スノ權ヲ有スルニ至リタルヲ以テ府縣債郡債市町村債ハ跡ヲ續イテ發生セントス而シテ地方自治體ハ地方債ノ爲メニ往々其獨立ヲ失ヒ地方自治ノ制ヲ擧グルニ至ル能ハザルモノ少ナカラズ是レ皆ナ公債ノ性質ヲ研究セズ輕卒ニ公債ヲ起シ其額巨額ニ昇リタルノ結果ナリト云ハザル可

カラズ地方自治ノ制ヲ永ク行フ所ノ外國ニ於テスヲ尙ホ且ツ斯ル結果ヲ見ルコトアリ我國ノ如キ地方自治ノ制ハ未ダ草創ノ際ニ屬シ地方債ヲ起スノゴト亦タ新タニシテ嘗テ經驗ナキコトナレバ我國ノ地方自治ニ贊與スルモノハ須ラク學理上ヨリ公債ノ性質ヲ研究シ歷史上ヨリ各國ニ於ケル公債ノ顛末ヲ學習シ以テ地方債ノ事ニ從フベキナリ苟モ一國ニ地方ノ政治ニ參與セント欲スルモノ豈ニ國債論ヲ研究セズシテ可ナランヤ

第二章 國債ノ經濟社會ニ及ボス影響

國債ノ募集及償還ハ概テ巨額ノ貨幣ヲ運轉シ且ツ國債ハ國民ノ負擔ヲ増スモノナルガ故ニ一國ノ經濟上ニ影響ヲ及ボス

國債ノ經濟社會ニ及ボス影響

國債ノ結果ハ其國ノ資本及信用ニ如何ナル影響ヲ及ボスカ

少小ナラズ故ニ國債ノ募集及償還ノ方法ハ決シテ之ヲ忽ヒスルヲ得ズ丁寧反覆之カ利害ヲ講究シテ以テ之ヲナサザルベカラズ今ヨリ國債ノ經濟社會ニ及ボス影響ヲ講述セント欲ス此影響ヲ考フルニ當リ第一ニ必要ナルハ國債募集ハ其國資本移動ノ結果ヲ生ズルヤ或ハ信用移轉ノ結果ヲ生ズルヤノ區別之レナリ抑モ資本トハ勞動者ニ供スル衣食住器械道具並ニ工場等ナリトス資本ヲ有スルモノハ衣食住器具ヲ與ヘテ勞動者ヲ使用シ得ルガ故ニ資本ノ移動ハ即チ勞動者ノ移動ナリ今國債ノ募集ニシテ資本ノ移動ヲ來ストキハ即チ此ノ實力ニ由リ政府ハ勞動者ヲ使用シ得ルナリ而シテ此勞動者ハ多クハ他ノ經濟社會ヨリ吸取セラル、ガ故ニ資本ノ移動ハ直接ノ影響ヲ經濟社會ニ及ボスナリ例セバ東海道鐵道布設ノ爲メニ國債ヲ募集シタル如キハ即チ資本ノ移動ヲ起シタルモノナリ政府ハ

資本ノ移轉

信用ノ移轉

此公債ニ由リテ得タル資本ヲ以テ勞力者ヲ使用シ此公債ノ募集ニ應ジタルノ資本家ハ是マデ使用シ來レレ勞力者ヲ解放セザルヲ得ズ斯ル變動ヲ生ズル所以ノモノハ全ク公債ノ爲メニ資本ノ移動ヲ生ジタルノ結果ナリ之ニ反シテ信用ノ移轉ナルトキハ毫モ經濟社會ニ影響ヲ及ボサズ整理公債ノ如キハ舊來ノ公債ヲ返済シテ新タニ公債ヲ起スモノニシテ此信用ヲ以テ彼ノ信用ニ代ユルニ止マルガ故ニ毫モ資本ノ移動ヲ生ゼズ從ヒテ經濟社會ニ變動ヲ生セサルナリ以上ノ區別ハ甚ダ規易キガ如シト雖モ世人往々之ヲ誤マルコトアリ彼ノ昔佛戰爭後ニ佛國ハ債金トシテ五十八億フランクノ巨額ヲ普國ニ支拂フニ至リ暫時ニ巨額ノ公債ヲ募集シタルモ之ガ爲メニ經濟社會ニ大影響ヲ及ボサザリシヲ見テ奇怪ノ現象ナリトシテ驚歎スルモノアリト雖モ此輩ハ此規易キ區別ヲ了知セサルニ由ルモノ

信用ノミヲ移
轉シテ資本ヲ
移轉セザル佛
國ノ實例

ナリト謂ハサルベカラズ何ントナレバ該公債ハ信用ノ移動ヲ
生ジタルノミニシテ資本ノ移動ヲ生ゼザルガ故ナレバナリ今
詳テカニ田尻氏ノ國債論ニ據リ其最況ヲ示サン
佛國ハ昔國ニ債金ヲ支拂フ爲メニ一千八百七十年及ビ全七十
一年ノ兩年ニ於テ三十億フランクノ公債ヲ募集シ又全七十三
年ニ三十億フランクノ公債ヲ募集セリ(此募集法ハ申込高十分
ノ一ノ保證拂チナシ翌七十四年四月ニ至ルマデ十九回ヲ以テ
悉皆拂込ミノ期限トスル五朱利ノ永期公債ナリ右七十三年應
募者ハ巴里府ニテ三萬四千三百廿四人其金額百卅二億五千二
百萬フランクバ里府ヲ除キ佛國々内ニテ七十九萬二千三百四
十人其金額四十五億一千三百萬フランク佛國外ノ諸國ニテ十
萬七千六百十二人其金額二百六十億五千萬フランク即チ合計
四百三十八億一千六百萬フランクノ巨額ニ達セリ佛國ハ此好

International Credit

國際信託

最况ヲ以テ巨額ノ公債ヲ募集シ有名ナル巨額ノ債金ヲ僅々二
三年ノ中ニ支拂ヒ而シテ經濟社會ニ大影響ヲ及ボサマリキ此
事實ハ世界ノ經濟家ヲシテ佛國ノ富ヲ驚歎セシメタリ然レド
モ斯ノ如キ巨額ノ公債ガ僅々ノ年月間ニ償還サレ得タル所以
ノモノハ強チ佛國ノ富裕ナルニアラズシテ國際動産ナルモノ
ノ存在セシニ由ルナリ乞フ國際動産(International Credit)ナルモ
ノ、性質ヲ説明セン
方今歐洲諸國ノ市場ニ於テ國際動産ト名クルモノアリ是ハ伊
太利西班牙土耳其魯西亞北米合衆國埃及等ノ公債證書又ハ數
國ニ跨ル線路ヲ所有スル鐵道會社ノ負債證券又ハ確實ナル工
業會社ノ證書ノ如キモノヲ總稱スルノ名目ナリ是等ノ者多ク
ハ國際普通ノ性質ヲ帶フ例ヘハ伊太利ノ建國ニ際シテ起シタ
ル負債ノ如キハ外國人ヨリ募リシ者甚タ多ク英吉利佛蘭西日

耳曼和蘭白耳義等ノ資本家其募リニ應シ今日各國ニ昔々行ハ
ル、モノナリ又佛蘭西澳地利鐵道ト號スル鐵道ハ重ニ佛國ノ
資本ヲ以テ敷設セラルレ其會社ノ負債證券ハ諸國ノ市場ニ於テ
自在ニ賣買セラレ、モノナリ斯ク各國間ニ自在ニ賣買セラレ
、ノ鐵道會社負債證券若シクハ公債證券ヲ稱シテ國際動産ト云
フ

佛國ハ千八百七十年ニ於テ前述シナル巨額ノ債金支拂ニツキ
如何ニ此國際動産ヲ使用シタリヤト云フニ元來何人モ自國ノ
政府ヲ信用スル、外國政府ヨリモ厚キガ故ニ自國政府公債ヲ
集募スルトキハ國人ハ是迄所有シタル外國政府ノ負債若クハ
外國鐵道會社ノ負債券(國際動産)ヲ賣却シテ其募集ニ應ズルハ
自然ノ勢ヒナリ一千八百七十年前ニ於テ佛國人ハ巨額ノ國際
動産ヲ所有シタルヲ以テ之ヲ賣却シテ本國政府ノ公債募集ニ

應ジタリ即チ佛人ハ國際動産ヲ中央銀行ニ賣與シテ佛國政府
ノ公債證券ヲ買取リタルナリ中央銀行ハ此國際動産ヲ買ヒ集
メテ之ヲ倫敦伯林羅馬ニ送りテ之ヲ賣却シ此賣却代金ニ對シ
テ獨逸政府拂ヒノ爲替手形ヲ振出し此爲替手形ヲ佛國政府ニ
與フ全政府ハ之レヲ請取リテ獨逸政府ニ債金トシテ之レヲ送
附シテ巨額ノ債金ヲ悉ク支拂ハサレバ佛國政府ハ佛國人民所
有ノ國際動産ヲ英伊諸國ノ人民ニ賣却シ此所得金ヲ以テ獨逸
政府ニ支拂ヒタルガ故ニ佛國ハ一錢ノ現金ヲ動かサズシテ外
國ニ巨萬ノ金員ヲ送附シタリト云フモ過言ニアラザルベシ
以上ニ由リテ之ヲ見レバ佛國人民ハ其所得ノ國際動産ヲ政府
ニ渡シテ全政府ノ公債ト引換ナシタルノミニシテ毫モ其資
中ノ現金ヲ支拂ヒタルニアラズ即チ此公債募集ノ爲メニ佛國
人民ハ毫モ其資本ノ移動ヲ生ゼズ單ニ信用ヲ移動シタルノミ

語ヲ換テ之ヲ云ヘバ國際動産ヲ賣却シテ佛國政府ノ公債ヲ所
 有シタルノ變動アリタルノミ故ニ曰ク國債ヲ募集スルモ唯ダ
 信用ノ移動ヲ生ズルハミニシテ資本ノ移動ヲ生ゼザルコトア
 リ此ノ場合ニ於テハ國債募集ハ毫モ經濟社會ニ影響ヲ及ボサ
 ズト

資本ヲ移動シ
 タル場合

是ヨリ國債募集ノ爲メニ資本移動ヲ生シタル場合ヲ論ジ如何
 ナル影響ヲ其國ノ經濟上ニ及ボスカヲ研究セシ
 國債募集ノ爲メニ資本ノ移動ヲ生シタル場合ニ其經濟上ニ及
 ボス影響ヲ見シニハ其資本ノ出所ヲ研究セサルベカラズ其資
 本ノ外國資本ナルト内國資本ナルトニ由リ大ニ其影響ヲ異ニ
 ス即チ應募者ノ内國資本家タルト外國資本家ナルトニ由リ大
 ニ其結果ノ上ニ差異ヲ生ズルナリ請フ先ツ外國資本家ヲ以テ
 公債ヲ募集セラレタル場合ヨリ之ヲ考察セシ

外國公債ノ利
 害

獨立ヲ害スト
 云フ説

外國公債募集ノ利害ニ關シ古來之ヲ論ズルモノ少ナカラズ外
 國債排撃論者ノ説ニ曰ク外國人ニ毎年利子ヲ支拂ハザルヲ得
 ズ加之ナラズ外債ハ外國ノ干涉ヲ受ケ一國ノ獨立ヲ失フノ端
 緒ヲ開クモノニシテ大ニ恐ルベキモノナルハ土耳其埃及ノ實
 例ヲ見テ明カナリト
 蓋シ斯ノ如キ議論ヲ爲シ妄ニ外國債ヲ排撃スルモノアリト雖
 モ予輩ヲ以テ之ヲ見レバ此等ノ論者ハ其一端ヲ知リテ未ダ其
 全豹ヲ知ラザルモノナリト爾ハザルヲ得ズ夫レ埃及土耳其國
 ノ外國ノ干涉ヲ受ケル眞正ノ原因ハ外國債ヲ募集シタルニア
 ラズシテ外債ノ元利子ヲ支拂ハザルニ由ルナリ右二國ハ財政
 整頓セズ年々公債ノ利子ヲ英佛諸國ノ人民ニ支拂フ能ハザリ
 シガ爲メニ遂ニ英佛諸國ノ干涉スル所トナリ其保護監督ヲ受
 ケザルベカラザルコト、ナレリ埃及ノ政府ニシテ約定ノ如ク

其要

公債ノ元利ヲ支辨シタラシムニハ英佛政府如何ニ無法強暴ナル
 モ何ゾ安リニ他邦ノ内政ニ干渉スルヲ得ベケンヤ否ナヤ々々
 ニ之レニ干渉ノ端ヲ開ク能ハサルノミナラズ却リテ大ニ其國
 ノ信用ヲ増加スルニ至ルベキナリ現ニ我七分利付公債ハ我地
 内ニ於テハ百圓ニ付僅々五六圓ノ打歩ヲ得ルノミナレドモ我
 國ノ七分利付外國債ハ倫敦市場ニ於テ百圓ニ付十八圓若クハ
 二十圓ノ打歩ヲ附シテ賣買セラル、ナリ然ル所以モノハ我國
 ガ約定ノ如ク外國債主ニ向ヒテ元利ノ支拂ヲナスガ故ニ大ニ
 我國ノ信用ヲ増ススノ如ク許多ノ打歩ヲ附シテ我國ノ外債ヲ
 賣買スルニ至リシナリサレバ一概ニ外債ヲ以テ外國干渉ノ端
 ナラズト云フハ甚ダ附レナキコト、爾ハザルベカラズ次ニ外
 國ヨリ資本ヲ借入ルレバ之ガ權ヲ外國人ニ支拂ハザルヲ得ズ
 下ノ理由ヲ以テ外債ヲ非難スルモノアレドモ抑モ此理由ハ未

元利ノ外債ニ
 關ハザルヲ得
 ズト云フ

其ノ無害ナル
 場合ト有テ
 場合アル所以

ダ以テ外國債ヲ可否スルノ理由トスルニ足ラズ何トナレバ國
 ノ内外ヲ問ハス公債ヲ募集スレバ元利ヲ償還セザル可クザル
 コト明白ナレバナリ且ツ更外債ヨリ得タル資金ヲ有用事業ニ
 投下シ其所得ヲ以テ其ノ元利ヲ仕拂ヒ尙水餘剩ヲ得ルコトア
 シバ即チ外債ノ爲メニ其ノ國ノ利益ヲ増シタルモノナリト附
 ハザルヲ得ズ外國債ノ爲ト世ニ妄リニ之ヲ排斥スベケンヤ之
 ニ反シテ公債ヨリ得タル資金ヲ無益ノ事業ニ浪費スルニ於テ
 ハ内國債ト雖モ害惡ヲ生ズ殊ニ外國債ニ於テハ其害惡最モ大
 ナル故ニ之ヲ慎重スルハ固ヨリ必要ナリ然レドモ外國ヨリ資
 本ヲ輸入シ之ガ爲メニ新事業ヲ起シ其利益ヲ以テ元利ヲ拂ヒ
 盡シ後チ尙ホ其利益ヲ收ムルヲ得バ誰レカ之ヲ惡シトスルヲ
 得ンヤ實例ヲ舉ケテ之ヲ説明センニ我新橋橫濱關鐵道ハ明治
 三年英國ニテ募集シタル外國債ヲ以テ成功シタルモノナレド

之ヨリ得タル利益ハ已ニ其元利ヲ支拂ヒ尙ホ今日其利益ヲ收ムルヲ得ルハ全ク外國債ノ利用ニアラズヤ印度澳洲等ノ新開國文明ノ器具ヲ輸入シテ驚クベキ急足ノ進歩ヲナシタルモノハ英國ノ資本ヲ借入レタルニ基セリ是ニ由テ之ヲ觀レバ其結果ノ如何ナリ同ワズ一概ニ外國債ヲ以テ一國ニ不利ナリト云フ可ラサルナリ蓋シ其用途ノ如何ニ由リテ大ニ結果ヲ異ニシ或ハ害トナリ或ハ益トナルモノナレバナリ故ニ之ガ使用ヲ慎ムヲ以テ其第一要務トナス

且ツ又戰爭等ノ爲メニ一時巨額ノ資本ヲ要スルヲアル片ハ内國債ヲ募集スルモノヨリモ外國債ヲ募集スルヲ以テ大利益アリトス一時ニ巨額ノ内國債ヲ起ストキハ已ニ戰爭ノ爲メニ吸收セラレタル上ニ尙ホ公債ノ爲メニ其國ノ營業資本ヲ吸收スルトキハ大ニ營業資本ヲ減少スルヲ以テ工業家商業家ハ以前

一時巨額ノ資本ヲ要スルヲアル片ハ内國債ヲ募集スルヲ以テ大利益アリトス一時ニ巨額ノ内國債ヲ起ストキハ已ニ戰爭ノ爲メニ吸收セラレタル上ニ尙ホ公債ノ爲メニ其國ノ營業資本ヲ吸收スルトキハ大ニ營業資本ヲ減少スルヲ以テ工業家商業家ハ以前

ノ如ク資本ヲ運轉スルヲ得ズ金融必迫ノ爲メニ幾干カ其工業又ハ商業ヲ限縮セザルヲ得ズ果シテ然ラバ一國ノ生産社界ニ妨害ヲ與ヘ時ニ恐慌ヲ生ジ工業ヲ衰退セシムルヲナシトセ不爾ルニ此時ニ當リ外國債ヲ募集シテ軍艦兵器其他一切戰爭ノ費用ヲ支拂スル片ハ内地ノ資本之カ爲ニ減少セラレズシテ以前ノ如ク製造工業ニ從事スルヲ得ルノ利アリ凡ソ商工業ニ執リテ最モ恐ルベキハ資本一時ニ吸收セラレ俄ニ金融必迫ヲ告ゲ恐慌ヲ生ズルニアリ而シテ戰爭等ニ要スル巨額ノ公債ヲ内國ノミニテ募集スルトキハ常ニ此恐慌ヲ生スルノ虞ナシトセズ故ニ斯ル事變ニ際スルトキハ外國債ヲ募集シテ内國市場ニ恐慌ヲ生セシメザルヲ以テ最モ良策トス

各國ノ歴史

觀リテ各國ノ歴史ヲ考フルニ財政整頓セル國ハ内外國ニ信ヲ有シ其公債ハ重ニ内國ニ於テ募集セラルト雖モ方今巨額ノ

公債募集ニ際シ其全額悉ク内國ニ於テ募集セラル、者ハ殆ン
 ド稀レナリ又國富ノ増進スル國ニ於テハ外國人ノ買入レシ公
 債證券モ漸次ニ其國ニ歸ルノ傾向アリ何トナレバ其國人ハ外
 國人ヨリモ能ク自國政府ヲ信用シ他國ノ公債證券其他ノ動産
 則リモ自國ノ公債ヲ所有スルチ好ムノ勢ヒアレバナリ節チ佛
 國ノ如キ屢ク廢擾革命ノ亂アルニモ拘ハラズ佛國人民ハ財政
 上其政府ヲ信用スルコト甚ダ篤ク他國資本家及ビ外國人ガ佛
 國公債ヲ信用スルヨリモ甚ダ厚シ之ヲ例センニ西曆千八百七
 十年ノ普佛戰爭後ニ佛國ハ昔國ニ債金ヲ拂フ爲メニ募集シタ
 ル重額ノ公債ノ如キハ外國人モ大ニ之ニ應セシト雖モ其募集
 ノ目的タル一時救済ノ爲ニスルモノ多ク真正ナル貯蓄ノ爲メ
 ニスルモノ甚ダ少カリキ爾後數年ヲ出スシテ佛國公債證券漸
 次本國ニ歸ルノ傾向ヲ示セリ伊國ノ實況亦大同シ尤來伊未將

外債ハ永ク外
 人ノ手ニアラ
 ズ

ノ意圖ハ數回ノ戰爭ヲ要シ其初ノ制度文物ヲ整頓スルニモ亦
 タ多額ノ費用ヲ要シ爲メニ巨額ノ公債ヲ募集セリ其募集ノ時
 ヲリ凡ソ十年間伊國公債全額ノ凡三分ノ二ハ外人ノ所有ニ
 屬セシカドモ西曆千八百七十七年ニ至リ其外人ノ所有ニ屬セ
 シモノ僅ニ四分ノ一若クハ五分ノ一ニ過ギズ米國ノ景況亦大
 體此事ヲ示ス北米合衆國ハ西曆千八百七十一年ニ於テハ額
 面八億圓乃至十億圓ノ公債證券ヲ外人ノ手ニ有セラレ爲メニ
 年々五千萬圓乃至六千萬圓ヲ利子トシテ外國ニ支出セリ然レ
 凡千八百七十八年ニ於テ其公債總額ノ六分ノ五ハ國人ノ有ニ
 歸シ僅々千二百萬圓ヲ利子トシテ外國ニ支出スルノ好景ヲ得
 タリ亦タ以テ公債ノ永ク外人ノ手ニ留ラザルヲ得ベキナリ
 抑モ歐米諸大國公債募集ノ當時ハ大ニ外國資本家ノ助力ヲ得
 ルモノナリト雖モ其公債永ク外人ノ手ニ止マルモノニアラザ

ルナリ其然ル所以ヲ明ニセント欲セバ先ツ政府ガ公債募集ニ
用ユルノ方法ヲ考ヘザルベカラズ方今歐米諸大國ハ自ラ直チ
ニ公債ヲ募集スルコトナキニアラズト雖モ多クハ銀行ヨリ一任
シテ公債ヲ募集セシム即チ銀行ハ巨額ノ公債ヲ政府ヨリ一時
ニ買入レ市場ノ需用ニ應ジテ一般公衆ニ漸次販賣スルナリ銀
行中ニテモ此事ニ當ラシムルハ重ニ其國ノ中央銀行ナリトス
而シテ近來歐洲諸大國ノ中央銀行ハ他國ノ銀行ト關係甚ク深
密ナルニ由リ公債募集ノ時ノ如キハ大ニ他國ノ銀行ニ聲授ヲ
求ムルヲ得例ヘバ佛國政府其公債募集ヲ佛國中央銀行ニ任ズ
ルトキハ全銀行ハ自ラ債主トナリ倫敦伯林維也納アムスタル
ダム等ノ諸中央銀行ノ援助ヲ得テ外國資本ヲ募集スルガ如シ
尙此情況ヲ明カニスル爲メニ千八百七十年普佛戰爭敗北後ノ
佛國公債募集ノ景況ヲ示サンニ此公債募集ニ由リ佛國政府ノ

實際收入シタル金高ハ六億九千九百七十四萬八千九百廿七圓
ニシテ發行額面ハ八億二百九十萬五千二百四十圓ニ達シ其應
募者ノ人數總計九十三萬四千二百七十六人内十萬七千六百十
二人ハ外國ノ應募者ナリ由是觀之外人ノ募集ニ應ズルモノ其
人數ノ上ヨリ之ヲ見レバ遙ニ内國人ヨリ少數ナリト雖モ其應
募額金ニ至リテハ實ニ驚クベキ者アリ即チ巴里ノ應募高二十
六億五千四十九萬一千八百八十六圓地方ノ應募高九億二百六十
八萬九千百十三圓併セテ凡ソ三十五億五千三百十八萬二百九
十九圓余外國人ノ應募高ハ五十二億一千三萬九千十圓餘ノ巨
額ニ上レリ豈ニ外國人ノ佛國公債募集ニ與リタルコト驚クベ
キモノナラズヤ實ニ當時佛國ハ大ニ外國資本ノ助力ヲ得シモ
ノト云フベシ若シ此助力ナカリセバ佛國ノ流動資本大ニ減少
シ其經濟上ニ非常ノ影響ヲ與ヘシヤ敢テ疑フ容ル、能ハザル

ナリ之ヲ要スルニ一時ニ巨額ノ公債ヲ府内ノミニテ募集スル
トキハ忽チ其國ノ流動資本ヲ減少シ金融必迫テ來シ時ニ恐慌
ヲ生スルコトナシトセズ此時ニ當リ外國資本ヲ輸入スルトキ
ハ此變動ヲ緩和シ其影響ヲ減少スルヲ得ルナリ而シテ公債ハ
永ク外國人ノ手ニ留マラズシテ漸次本國ニ歸リ來タルモノナ
リ由是觀之外國人ノ公債募集ニ應スルハ大ニ其國ニ利アリト
云フベシ

公債ノ爲ニ内
國資本ニ移動
ヲ生シタル場
合ノ結果

是ヨリ公債募集ノ爲メニ國內ノ資本移動ヲ生ジタル場合ニ公
債募集ハ如何ナル影響ヲ其國ノ經濟社會ニ及スヤヲ研究セン
此影響ヲ論ズルニ當リ募集セラレントスル公債利子ノ高下ニ
由リ三個ノ場合ヲ設ケテ之ヲ説明セントス

第一通常ノ利子ト全一ノ利子ヲ以テ公債ヲ募集スル片

第二通常ノ利子ヨリ稍々高キ利子ヲ以テ公債ヲ募集スル片

其一
普通ノ利子ニ
テ募集セルト

第三通常ノ利子ヨリ非常ニ高キ利子ヲ以テ公債ヲ募集セル片

第一通常利子ト同一ノ利子ヲ以テ公債ヲ募集スルモ之レガ爲
メニ已數ノ工業ニハ影響ヲ及ボササルモノトス何ントナレバ
何人モ已ニ營ムル工業ニ使用セル資本ノ一部又ハ全部ヲ移シ
テ同一ノ利子ヲ得ラルベキ公債ヲ買ハントスルモノナケレバ
ナリ通常利子ト全一ノ利子ヲ以テ公債ヲ募集セラル、爲メニ影
響ヲ受タルモノハ放銀ノ途ヲ求メツ、アル資本ナリトス經濟
上ニテ所期ル自由資本ナリ之ヲ約言スレバ其影響ヲ蒙ルモノ
ノハ既設ノ工業ニアラズシテ新設セラレントスルノ工業ノミ
サレバ通常利子ヲ以テ公債ヲ募集スルモ經濟社會ニ影響ヲ及
ボササルモノト云フベシ

或人曰ク政府ニ於テ公債ヲ募集スルトキハ世間一般ノ利子ヲ
高ムルノ勢アリ何トナレバ資本ヲ借り入レントスルモノ、

爭甚シキニ至レバナリト此議論ハ成ル程市場好氣配ヲ呈シ何人モ自己ノ工商業ヲ擴張セントシ資本ヲ借り入レントスル時ニ政府モ出デ、公債ヲ募集セントスルハ世人ハ政府ヲ信用スルコト厚キガ故ニ同ジ割合ノ利子ナレバ政府ニ貸サントスル故ニ世人ハ通常利子ヨリ稍々高キ利子ヲ拂ハザルベカラザルモ若シ市場不活潑ニシテ何人モ其業ヲ擴張スルヲ欲セザル場分ニ未ダ使用セラレザル自由資本ヲ政府ガ借り入レントスレバトテ少シモ世間一般ノ利子ヲ高ムルコトナキナリ何トナレバ政府ハ通常利子ヲ拂フノミナレバナリ

第二通常利子ヨリ稍々高キ利子ヲ以テ公債ヲ募集スル場合政府ガ通常利子ニテハ公債募集ニ應ズルモノ、少キヲ知り之ヨリ高キ利子ヲ公債ニ附スルカ若クハ額面以下ニテ公債ヲ賣出シタリト假定セヨ此場合ニ應募ノ資本ハ三個ノ額ヨリ來ル可

其二普通ヨリ少シク高キ利子ニテ募集セルトキ

シ其來ル源ノ異ナルニ從ヒテ其結果ヲ異ニスル故ニ一々其源ヨリ研究セン第一ノ源ハ高利ヲ得ントノ欲望ヨリ世人ガ節約ヲ行フニ至リタルノ結果ナリ人々節約ヲ行フニ至ラバ是迄其需用ヲ充タシタルノ供給者ハ需用中止ノ爲メニ製造工業ヲ中止セサルベラザルニ至ルベシ從ヒテ許多ノ勞動者ヲ解放スルニ至ル而ル片ハ是迄勞動者ノ需用品ヲ製造供給シタルノ製造工業モ亦從ヒテ中止セザル可ラサル勢ニ至リ遂ニ經濟社會全般ノ組織ヲ動搖スルニ至ルベシ然レドモ凡ソ財政ニ長スルノ政府ハ公債ヲ募集シタレバトテ之ヲ金庫ニ貯ヘ置カズシテ直チニ之ヲ事業ニ使用スル故ニ之ガ爲メニ勞動者ヲ要スルヲ以テ彼ノ不用ニナリタルノ勞動者ヲ此ニ吸收レ能ク經濟組織ヲ變動セザルベキナリサレバ此場合ニハ先ツ大ナル影響ヲ經濟社會ニ及ボサハルモノト謂フベキナリ第二ノ源ハ工商業家ノ

流動資本ナリ凡ソ資本ヲ分チテ二トス固定及ビ流動資本之レ
 ナリ器械道具ノ如ク資本家ノ掌中ニアリナカラ其用ヲナスチ
 固定ト云フ給料ノ如ク其ニ掌中ヲ離レテ始メテ其用ヲナスチ
 流動ト云フ而シテ概子工商業者ハ此固定及ビ流動資本ノ兩者
 ナ併セ用フルチ要シ兩者相待チテ初メテ其用ヲナスモノナレ
 バ二者ノ總計ニ對シ通常ノ利益ヲ收メサルベカラズ故ニ流動
 資本ニ對シテ通常ノ利益ヲ收ムルモ固定資本ニ對シテ通常ノ
 利子ヲ得ル能ザレバ之ヲ貸與スルモノナシ然レドモ政府公債
 ノ利子ニシテ通常利子ヨリモ高クシテ流動資本ヨリ得ル利子
 ノミニテモ流動及ビ固定資本ニ對スル通常利子ノ總計ヨリモ
 多キトキハ何人モ工商業者ヲ中止シ流動資本ヲ政府ニ貸附スベ
 キナリ玆ニ於テ其工商業者ハ爲メニ中止スベキガ故ニ經濟社界
 ニ影響ヲ與フルモノナリ但シ此場合ニ政府ガ募集シタル資金

其三非常ノ高
 利ニテ募集セ
 ルトキ

ヲ以テ事業ヲ起シ勞力等ヲ要スルニ至ルトキハサホド大ナル
 變動ヲ經濟社界ニ及ボサルナリ
 第三政府ガ非常ニ高利ヲ以テ公債ヲ募集スルトキ「市場ノ利
 子五朱ナルニ七朱又ハ八朱ノ利子ヲ附シテ公債ヲ募集スルト
 キハ之ヨリ以下ノ利益ヲ收ムル所ノ工商業者ハ悉ク中止シテ其
 資金ヲ以テ公債證書ヲ講求スルニ至ルベシ斯ク工商業者ニシ
 テ其事ヲ中止スルトキハ是マデ此等ノ事業ニ從事シタルノ勞
 働者ハ其職ヲ失ヒ口糊ニ窮スルニ至ルベシ實ニ經濟上ノ一大
 變動ナリ是ニ至リテハ公債募集者ハ深思熟慮ノ後チ非常ニ急
 需アルニアラズンバ決シテ之ヲ募集スベキニアラザルナリ

公債ヲ起スル
キ場合

第三章 國債ヲ起スノ場合ヲ論ズ

公債ハ如何ナル場合ニ起スベキ者ナリヤト云ニ大畧左ノ如シ

第一 戰亂飢饉洪水其他ノ天變地異ヨリ生ズル非常ノ費用ヲ其年度ノ歳入ヲ以テ支辨スル能ワザルトキ

第二 一時若クハ永久ノ歳入ヲ補足スルトキ

第三 鐵道築港其他ノ公共事業ヲ起シ若クハ兵器改買軍艦買入ノ爲メ巨額ノ費用ヲ要スルトキ

第四 制度變更若クハ財政整理ノ爲メ巨額ノ資金ヲ要スル時

第五 人民ヨリ政府工預ケ金

第六 一個人若クハ會社ニ政府ヨリ補助金下附ヲ約束スルトキ

第七 紙幣發行

是ヨリ以上ノ諸原因ヲ説明セントス公債ノ起ル第一原因ハ戰爭及ビ不時ノ災變トス夫レ戰爭將ニ起ラントシ若クハ飢饉洪水

非常ノ費用

一時歳入ノ不足補充

水ノ大災害起リタルトキハ密ニ巨額ノ資金ヲ要スルノミナラズ迅速ニ其資金ヲ要スルモノナレバ其年度内ニ於テ之ヲ負擔スルハ到底足力ノ堪ユル所ニアラズ故ニ政府ハ余儀ナク公債ヲ募集シテ其急ヲ救ハサルベカラズ各國ノ公債概テ此等ノ原因ヨリ生シタルモノナリ我西南戰爭ノ如キハ千五百萬圓ノ公債ヲ起セリト云フ

第二 一時ノ歳入ノ不足ヲ補充スルテ財政整頓セル國ニアリテハ會計年度ニ先チテ預算ヲ設ケ歳入歳出ヲ相平均セシメ會計年度ノ終リニ至リテ決算ヲナスヲ常トス然レドモ決算ハ往々預算ト齟齬シ預算ノ歳入或ハ減シ預算ノ歳出或ハ増スコトアリテ如何ニ預算ヲ精密ニ調製スト雖モ決シテ爲愛ヲ免ルハコト能ワズ其然ル所以ノ原因ニ數多アリ其年度中ニ於テ歳入ノ國庫ニ入り來ルニ先チテ歳出ヲ要スルコトアリ即チ歳入

ハ十月若シクハ十一月ニ納リ來ルモ其以前ニ於テ即チ四五月頃ニ歳出ヲ要スルヲアルトキハ一時短期公債ヲ起シテ之ヲ支辨シ后日ノ歳入ヲ以テ之ヲ辨濟スルヲアリ是レ我國ニモ行フルハ所ノ大藏省證券(ExchequerBill)ナリ又豫算表ニ於テ歳出歳入相平均スト雖モ豫算表ナル者ハ眞ノ豫算ニ過ギザルガ故ニ如何ナル精密ナル豫算ト雖モ實地ノ歳出歳入ト異ナルヲナシトセズ歳入中ニテモ人頭税地租所得税ノ如キハ毎年大差ナキモ酒税烟草税海關税ノ如キ間税ハ年々歳々同カラザルガ故ニ歳入常ニ變動シ豫算通りノ歳入ヲ得ル能ハザルヲアルベシ又歳出ニテモ物價騰貴又ハ流行病其他ノ事變若クハ新法律實施ノ爲メニ意外ノ費用ヲ要シ到底其年度ノ歳入ヲ以テ支辨スルヲ能ハザルベシ斯ル歳入ノ不足毎年永久ニ生ズルモノトセバ新ニ租税ヲ起シ若クハ舊税ノ税率ヲ高ムルヲ宜シトス然レド

永久利益ノ起
業費

モ其ノ費用ハ永久ノ性質ヲ有セズシテ單ニ臨時ノ性質ヲ帯ビ且ツ其額左程大ナラズシテ兩三年若クハ四五年ニ於テ之ヲ支償スルノ見込アル時ハ爲メニ長期公債ヲ募集シ若クハ新税ヲ起スヲ要セズ數年ニ涉レル大藏省證券ヲ發行シテ之ヲ支辨スルヲアリ例セバ明治廿五年若クハ廿六年拂ヒノ大藏省證券ヲ發行シテ明治二十三年度ノ歳計不足ヲ補フガ如シ
第三鐵道ヲ敷設シ港灣ヲ浚築シ電信線ヲ架設シ航海ノ線路ヲ通スル如キハ其費用固ヨリ僅少ナリトセバ之ヲ民業ニ放任スレバ悉ニ此等ノ便利ヲ起スヲ得ズ此等ノ便利起ラザレバ國富發達スルヲ得ズ國富發達セザレバ他國ト拮抗シテ國威ヲ維持スルヲ能ハズ而シテ此等ノ事業ハ後世子孫ニ利益ヲ殘スモノ多キニ由リ之カ爲メニ公債ヲ起スモ敢テ后世ヲ苦シムルヲナク却テ大ニ之ニ利益ヲ與フルコトアルベシ又當世ノ人ト雖モ

財政整理

此等事業ノ爲メ一方ニハ少々ノ負擔ヲ増スコトアルモ又一方ニハ此等ノ爲メニ生計ヲ裕ニスルノ便アルヲ以テ其負擔ハ決シテ重キヲ感セザルベシ而シテ戰艦銃砲一切ノ武器武器ノ改良ノ如キハ大ニ費用ヲ要ス然レモ是レ又勘ナクトモ其國ノ防禦ニ緊要ナル丈ケハ必ズ之ヲ爲サザルヲ得ズ是等ノ爲メニ要スル費用固ヨリ僅少ニアラザレバ租税ノミヲ以テ之ヲ負擔スル能ハザル場合ナシトセズ以上ノ原因ノ爲メ時ニ或ハ公債ヲ起サザルヲ得ザルハ更ニ勢ノ免ル、能ハザル所ナリ

第四制度變更若クハ財政整理ノ爲メ公債ヲ要スルアリ我府維新ノ初メニ當リ封建制度ヲ廢シ祿制ヲ廢シ大ニ金祿公債證書ヲ發行シ之ヲ從前ノ有祿者ニ交付シタル高實ニ一億七千四百二十餘萬圓ニ達セリ其他秩祿公債舊神官配當祿公債ノ如キ皆ナ是制度變更ノ爲メニ要シタル公債ナリ又財政整理ノ爲メ

人民ノ預ケ金

ニ紙幣償還ヲ行ハントテ金札引換公債同無記名公債ヲ發シ又明治十九年ノ整理公債ノ如キハ是レ又財政整理國費ノ節減ヲ目的トスル者ニ外ナラズ(其詳シキハ本邦國債始末ノ部ヲ見ヨ)

第五人民ヨリ政府エ預ケ金貯蓄ハ國家ノ強富ヲ致スノ一大原因ナルヲ以テ政府ハ力メテ之ヲ獎勵セザルヲ得ズ而シテ之ヲ獎勵スルニハ保護ノ道ヲ盡サザルヲ得ズ勿論民ニ貯蓄銀行保護會社等ノ設アリテ貯蓄ノ獎勵殆ト餘ス所ナキカ如シト雖モ凡ソ民立ノ會社ハ自己ノ利益ヲ先ニシテ公益ヲ後ニスルヲ常トシ貯蓄ノ如キモ最少額ノ取扱ヒヲ爲スハ頗ル費用ヲ要シ手數ヲ要スル故ニ之ヲ取扱フニ嫌忌ス然ルニ政府ハ元來公衆ノ爲メニ計ル者ニシテ計算上其利益ヲ得ルヲ以テ事務トスルノニアラズ其費用ヲ償フニ足レハ公衆ノ爲メ貯金ヲ預ルモ敢テ不便ナキヲ以テ民立會社ノ不利トスル最少額モ之ヲ取扱フヲ不

利トセス且ツ又官立ノ貯蓄預リハ萬一損失アレハ國庫ニ於テ
 之ヲ負擔シ損失ヲ貯蓄者ニ及ホサズ隨テ貯金ノ保護民立ノ會
 社ヨリ厚ク大ニ貯蓄金ヲノ鞏固安全ナラシムルノ効力アリ加
 フルニ人民各々其嗜好ヲ異ニシ或ハ民立會社ニ委託スルヲ好
 ム者アリ或ハ官立ニ委託スルヲ喜ブ者アルヲ以テ諸國ノ政府
 ニ於テ郵便局貯蓄預リ大藏省貯金預リ金養老預リ金等ノ制ヲ
 設ケ大ニ貯蓄ヲ鼓舞獎勵ス而シテ一度政府ノ預ル所トナレバ預
 ケ人ハ隨時又ハ定期ニ之ヲ引出スノ權利ヲ得政府其引出ノ請
 求ニ應ズルノ義務ヲ有スサレバ是レ亦一種ノ公債タルヲ免レ
 ズ殊ニ此類ノ公債ハ者府ノ意思ヲ以テ其額ヲ増減左右スルヲ
 能ハス只タ利子歩合ノ昇降ヲ以テ少シク之ヲ増減スルヲ得ベ
 シト雖モ勿論民立ノ貯蓄銀行ト競争ヲ惹起スカ如キ結果ヲ生
 セサル様之ヲ昇降セサルヲ得サルヲ以テ其預ケ人ト引出トハ

ク至公衆ノ意中ニアル者ナレバ國債中最モ危險ノ者ナリトス
 第六一個人若クハ一會社ニ政府ヨリ補助金下附ヲ約束スルコ
 ト鐵道會社ノ如キハ實ニ經濟上ノ便利ヲ計ルノミナラズ又兵
 事上ノ關係ヲ有スルモノナル故ニ少シク經濟上ノ不便アリト
 雖モ國家全体ノ爲メニ忍ヒテ以テ之ヲ設立セサルヲ得ズ而シ
 テ之ヲ設立シテ十分ノ利益ヲ得ル能ハザルカ又ハ僅々タル資
 本不足ノ爲メ全体ノ事業其功ヲ奏スルヲ得ズシテ其効力ヲ缺
 クノ場合ナキニアラズ此ノ如キ場合ニ於テハ國家全体ノ利益
 ノ爲メ政府年數ヲ期シテ補給ヲ約束スルヲアリ又ハ一時ニ補
 給金ヲ與フルヲ約束スルヲアリ此約束一タビ成リテ未タ之ヲ
 支拂ハサル間ハ政府支拂ノ義務ヲ終ラサルニ由リ會社ハ其期
 日ニ至リ其支拂ヲ請求スルノ權利アリ政府ハ之ヲ支拂フノ義
 務アルモノニシテ恰モ是レ其丈ケノ公債ヲ負フト同一ノ効驗

紙幣發行

ヲ生スルモノトス勿論此等ノ費用ハ國債ノ部分ニ編出セス別ニ補給金ノ款ヲ設ケテ支辨スルヲ得ベシト雖モ其性質タル公債ノ性質ヲ有スルヤ又多辨ヲ要セザルナリ

第七紙幣發行兵亂騷擾等ノ爲メ非常ノ費用ヲ要スルトキハ普通ノ歳入ヲ以テ之ヲ支拂フコト能ハザルヘク例令公債ヲ起スト雖モ其額大ニ増加シ尙ホ進ミテ之ヲ募集セハ其利子ノ爲メノミニモ歳入ノ大部分ヲ支出セサルヲ得ズ又此ノ如キ禍機ニ際會スレハ非常ノ高利ヲ以テヌルノ外ハ公債ヲ借入ル、コト能ハザルヲ以テ勢不換紙幣ヲ發行スルカ或ハ兌換紙幣ヲ變ジテ不換紙幣トナスノ已ムヲ得サルコトアルベシ然レモ紙幣ハ元ト自ラ價格ヲ有スルモノニアラス其性質タル後年ニ於テ都合次第成ルベキ丈ケ早ク所有者ノ請求ニ隨ヒテ正貨ト交換スヘシト定ムル所ノ約束手形タルニ過ギザレバ是レ亦國家負擔ノ公

債タルヲ免レズ

以上述べタル如ク國債ノ原因ニ數多アリト雖モ之ヲ要スルニ國債ハ政府カ内外ノ人民若クハ會社等ヨリ金員借入若クハ預入又ハ支拂ノ約束ヲナシ之レカ爲メニ生スル償還拂戻若クハ支拂ノ義務ヲ總稱スルモノニシテ即チ一國ノ負擔スル負債ナリ(國債ノ定義トス)

第四章 非常準備金ヲ置クノ可否

國家非常ノ費用ヲ支辨スル爲メニ國債募集ヲ要スル場合ハ前章ニ於テ已ニ詳述セリ而ルニ國債ヲ募集セスシテ非常費ヲ支辨シ得ルノ二法アリ曰ク非常準備法ナリ曰ク租稅增加法ナリ前者ハ普國ニ專ラ行ハル、ヲ以テ前者ヲ普國法ト云ヒ后者ヲ

國債ヲ募ラズ
ノ非常ノ經費
ニ供スル方法

英國ニ行ハル、ナ以テ英國法ト云フアリ非常準備法トハ平時ニ於テ資金ヲ貯蓄シ置キ以テ急時ニ應ズルノ法ニシテ租稅增加法トハ平時ニ於テ或租稅所得稅ノ如キモノナリノ稅率ヲ低下シ置キ急時ニ此稅率ヲ高昇シテ以テ其費ニ充ツルノ法ナリ本章ニ於テ國家非常ノ費用ヲ支辨スル爲メニ國債ヲ募集スルト非常準備ヲ設クルト何レカ利便ニシテ何レカ財政ノ途ニ合ヘルヤヲ論述セントス

普魯西國ニ軍庫(War chest)ナルモノ、昔時ヨリ存在スルコトハ夙ニ世人ノ知レル處ナリ彼有名ナルフレデリツキ二世ハ即位ノ時ニ父王ヨリ八百七十萬ターレルヲ讓リ受ケタリ一ターレルハ凡ソ六十錢ニシテ此高五百二十二萬圓ナリ當時普國ノ人口漸三四百萬ニシテ當時銀貨ノ貴重ナリシヲ思ヘバ殆ンド方今德國政府ガ二億圓ノ準備ヲ有スルニ同ジト云フ豈ニ亦タ驚

クベギノ巨額ナラズヤフレデリキ二世ハ長キ治世ノ間戰爭ヲナシテ此準備金ヲ支出シタレド崩御ノ節ハ七千萬ターレルノ巨額ヲ蓄積シテ之ヲ子孫ニ殘シタリト云フ千八百七十年ニ佛國ヨリ得タル償金十億圓ノ内三千萬圓ヲ割キテ此準備金ニ加ヘ今日尙ホ非常準備法ニ據レリ然レドモ此ノ法タル政ヲ普國ニノミ行ハル、モノニアラズシテ昔時ハ各國ニ殆ンド洽ク行ハレタルノ法ナリアゼンス國ハベルシヤカ戰爭(紀元前四百九十年)トベロボン子サス戰爭(紀元前四百四十六年)ノ間ニ一萬タレンツ(一タレンツハ凡ソ一千元一圓)ノ巨額ヲ準備シラセドモニン政府モ亦タ此例ニ倣ヘリ羅馬共和政府ハ奴隸免役稅トシテ其價格ノ二十分ノ一ヲ徵集シ并ニ外敵ヨリ得タル分捕物ハ悉ク之ヲサルタンノ殿堂ニ納メ國家危急ノ場合ニアラザレバ支用スベカラザル神聖不可侵ノ準備金トナセリ后子帝世ノ世トナリ

非常準備ノ欠

オーグスタスタイベリヤウエスベシヤン等ノ英主ハ皆ナ非常準備ヲ設グルコトニ勉メ佛國ノ諸王モ亦タ此ノ法ヲ採用セリ實ニ此法ハ昔時一般ニ行ハレタルモノナリ抑モ非常準備ヲ有スルノ利害如何曰ク之ヲ非難スベキ二個ノ論點アリ第一一國ノ生産上ヨリ之ヲ論ジテ不可ナリトセザルヲ得ズ夫レ政府ニ於テ非常準備ヲ設クルハ歳入ノ殘餘ニ由ラサルヲ得ズ歳入殘餘ヲ得ルハ租稅ヲ重クスルカ官有財産ヲ賣却スルカ又ハ外國ヨリ巨額ノ債金ヲ得ルニアラザレバ之ヲ得ベカラズ而シテ官有財産ハ妄リニ之ヲ賣ルベカラズ外國ヨリ債金ヲ得ル是レ亦期スベカラザルナレバ苟モ非常準備ヲ積マントスレバ是非トモ租稅ヲ重クセザルベカラズ租稅ヲ重クシテ一國ノ歳入ヲ増加シ其殘餘ヲ貯蓄シテ之ヲ政府ノ庫中ニ藏メ之ヲ生産ノ業ニ使用セサルヲ可トスルカ將タ租稅トシテ

人民ノ囊中ヨリ之ヲ吸收セズ人民ニ其資金ヲ生産業ニ支用セシムルヲ可トスルヤト云フニ政府ノ庫中ニ藏ムルトキハ毫モ利益ヲ生セズ若シ政府ニテ之ヲ生産業ニ支用スルトキハ非常準備タルノ功用ヲ失フニ至ル何トナレバ戰時危急ノ片ニ當リ早速現金ヲ供スベカラザレバナリ然ルニ之ヲ人民ノ手ニ置ク片ハ一國ノ生産爲メニ發達スルヲ得ヘキナリ生産業大ニ發達シテ人民大ニ富ムニ至ラハ國民ニ信用アル政府ハ何時ニテモ公債ヲ募集スルヲ得ルガ故ニ殊更ニ準備ヲ貯フルニ必要ナシ第二立法部ハ行政部ヲ監督スル能ハサルニ至ルベシ立法部ノ行政部ヲ監督スルノ最良武器ハ財政監督ナリ蓋シ如何ナル事業ト雖モ之ニ要スル費用ノ伴ハザルコトナシ而シテ其費用ヲ認可監督スルハ立法部ノ任ナレバナリ而ルニ非常準備ヲ有スル時ハ行政政府ハ立法部ノ認可ヲ待タズシテ戰爭ヲ始メ其他ノ

事業ヲ起シ遂ニ立法部ハ行政部ヲ監督スル能ハサルニ至ルベシ論者或ハ云ハク非常準備金ハ如何ニ巨額ナリト雖モ戰爭費ヲ全ク支辨スル能ハズ遂ニ立法部ニ向ヒテ其支出ヲ要求スルニ至ルベシ此ノ時ニ當リテ監督ヲナセバ十分ナリト然レドモ戰端ヲ一トタビ開キタルハ國家ノ名譽ノ爲メニ飽クマ部ハテ之ヲ續繼セザルヲ得ズ政府ガ輕舉事ヲ起シタル爲メニ立法不本意ナガラモ其事ヲ繼ギ其費ヲ出サザルヲ得ズ茲ニ於テ財政監督ヲ行フ能ハザルモノト云フベキナリ財政監督ハ費用ヲ支出セザル前ニ當リテナスベキモノニシテ事後ノ監督ハ其効用ヲ見ルコト鮮少ナリ

公債ハ非常準備ニ歸スル

以上ノ如ク非常準備ノ法タル大害アリト雖モ非常準備ヲ設クルノ外巨額ノ費用ヲ支辨スルノ方法ナキニ於テハ或ハ萬止ムヲ得ズト雖モ方今開明ノ度大ニ進ミタル十九世紀ノ今日ニ於

テハ突然不意ノ事起ルコト罕ニシテ戰爭ノ如キモ談判等ノ爲メニ急國戰ノ場合ニ至マデニハ數ヶ月ヲ要スルヲ例トス故ニ事變ニ先チテ豫メ公債ヲ起シ若クハ交換紙幣ヲ一時不交換紙幣トシ以テ戰爭其他ノ危急ニ應ズルヲ得ルナリ故ニ方今ニ於テハ昔時ノ如ク非常準備ヲ設置スルノ必要ナシトス然レドモ不幸ニシテ佛國ノ如キノ地位ニ居リ常ニ外敵ト睨ミ合ヒ、姿ニシテ何時戰爭ノ始マルモ計ルベカラザルノ危機ニ迫リ居ル國ニテハ募集ニ少クトモ二三ヶ月ヲ要シ且ツ國會ノ議決ヲ要スル公債ヲ以テ迅速ヲ要スル戰費ニ供スル能ハズ故ニ幾分カ非常準備ヲ平時ニ蓄フルヲ可トス而シテ非常準備ノ貯蓄法ハ之ニ對シテ紙幣ヲ發行シ之ヲ合法紙幣トシテ以テ平時ハ殖産ヲ助ケルノ用ニ供シ戰時ニ至レバ此紙幣ヲ不交換紙幣トナシ以テ其準備金ヲ直チニ非常費ニ支用スルヲ以テ最良手段トス

又現金ニテ之ヲ貯ヘズ公債證書ニテ貯フルコトアリト雖モ内
 國債ト外國債トニツキ大ニ區別アリテ外國債ヲ以テ貯フルチ
 最モ宜シトス内國公債ヲ購入スレバ其國ノ流動資本ヲ減少ス
 ルノ恐ナシト雖モ元來此準備タル非常ニ備フルモノナリ而シ
 テ非常ノ時ニ當リテ當該國ノ公債下落スルハ最モ當然ノナ
 レバ此準備ヲ重ニ内國公債ニテ所有スルハ不可トス若シ之ヲ
 外國公債ニテ處有スレバ其公債ヲ購求スル時ニ當リテ一時費
 本ヲ外國ニ輸出スルノ不便アリト雖モ非常ノ時ニ臨ミ之ヲ賣
 却スルニ當リテハ元金ノ還リ來ルノミナラズ年々外國ヨリ利
 子ヲ得ルガ故ニ内國債利子ノ如キ國民ノ拂フ所ノ税金ヨリ出
 ルモノニアラザルヲ以テ其利益固ヨリ同日ノ論ニアラズ而シ
 テ非常ノ時ニ當リテハ自國ノ公債ハ大ニ下落スト雖モ外國公
 債ハ其應ニ取調キ處シ敗北スベシト思惟セラレタル敵國ノ者

ニアラザルヨリハ此時ニ際スルモ尙ホ下落スルノ理ナシ故ニ
 若シ不幸ニシテ非常準備ヲ置カザル可ラザルノ位置ニアルノ
 邦國ハ其非常準備ノ公債丈ケハ宜シク外國債ニテ所有スルヲ
 以テ大ニ其國ニ利アリトス否ラザレバ非常準備タルノ効用ヲ
 ナス能ハザルノ場合ナシトセザルナリ

第五章 非常ノ費用ヲ支辨スルノ方法(公債ト租稅トノ關係)

夫レ國家ハ非常ノ費用ヲ要スルノ場合ナシトセズ此非常費ニ
 備フル爲メニ平時ヨリ非常準備金ヲ設クルノ不可ナルコトハ
 已ニ前章ニ於テ論述シタルカ如シ然ラバ國家ハ非常ノ場合ニ
 當リ如何ナル方法ヲ以テ此急需ニ應セントスルカ是レ本章ニ

於テ論セントスルノ要點ナリ

此方法ニ關シ三個ノ異說アリ左ノ如シ

- 一、 租稅ヲ増加シ其收入ヲ以テ非常費ヲ全ク支辨スベシ(新
 タニ徵集スル租稅ノ未マダ國庫ニ入ラザル前コ當リテ
 ハ暫時其欠ヲ補フガ爲メニ公債ヲ發スルハ此限ニアス
 ズ)
 - 二、 公債ヲ募集シテ非常費ヲ全ク支辨スベシ(公債ヲ起シタ
 ル爲メニ利子支拂ニ要スル費用ハ租稅ヲ増加シテ之ヲ
 支辨ス又或ハ公債ヲ起シテ利子支拂ニ充ツルコトアリ)
 - 三、 公債及ビ租稅ノ二者ヲ併セ用ヒテ非常費ヲ支辨スベシ
 (如何ナル割合ニテ公債及租稅ノ二者ヲ割合スベキハ非
 常費ノ額ニ由リテ之ヲ定ムベシ)
- 以上ノ三說ハ是レ皆ナ國家通常ノ收入ヲ以テ其經費ヲ支辨ス

租稅ヲ増加レ
テ非常費ニ供
スル可也

ル能ハザル非常ノ場合ニ應スルノ方法ナリトス吾輩ハ以下ニ
 於テ此三說ノ當否ヲ論究セントス

一、 非常費ハ悉ク租稅ヲ以テ支辨スベキモノナルカ、悉ク租
 稅ヲ以テ之ヲ支辨スベシト主張スルモノ、說ニ云ハク各時代
 ノ人民ハ其時代々々ノ收入ヲ以テ其經費ニ充テザルベカラズ
 決シテ自己ノ生活スル時代ノ負擔ヲ后世子孫ニ負擔セシムル
 ノ謂レナキハ猶ホ父が未ダ生レザル子孫ノ勞力ニ生活セント
 スルモノ、如ク甚ダ謂レナキ道理ナリ况ンヤ公債ヲ募集シテ
 負擔ヲ后世ニ殘スルハ二回ノ負擔ヲ受ク(即チ最初其元金ヲ出
 シタル人ノ負擔ト其公債ヲ償却シタル人ノ負擔)ルニ於テチヤ
 グラッドストン氏クリミヤ戰争ノ時ニ當リ租稅ヲ以テ其戰争
 費ヲ支辨スベシトノ說ヲ主張シテ曰ク夫レ公債ヲ以テ戰争ヲ
 ナストキハ設令ヒ其戰争ニ打チ勝チタリトモ其戰争ハ其公債

ヲ負擔スル后世人民ノナシタル戰爭ナリト謂ハザルベカラズ
 且又戰爭ノ費用ヲ悉ク公債ヲ以テ支辨スル片ハ之カ負擔ヲ受
 グル者ハ后世ノ民ニ現世ノ民ニアラズ現世ノ民ハ戰爭ノ愉
 快ノミヲ享ケテ其負擔ヲ蒙ラザル者ナレバ動モスレバ兵ヲ亂
 リニ動カシ國力ヲ濫用スルノ弊アリ如カズ租稅ヲ課シテ戰爭
 ノ重キヲ感セシメ一國ノ民ヲシテ事ヲ慎マシムルニ如カズト
 抑此説タル愉快ハ愉快ナリト雖モ二個ノ必要ナル事實ヲ却
 シタルモノナリ第一民力第二民意之ナリ夫レ重稅ヲ課セラル
 ハ片ハ人民ハ幾分カ勉強シテ之ヲ支拂ヒ得ルモ租稅額甚ダ重
 キニ過グル片ハ民力ハ其負擔ニ堪ヘズ例ヘバ北米合衆國南北
 戰爭ノ時ニ當リ巨額ノ費用ヲ悉ク租稅ヨリ徵收シタリトセン
 カ工業家ハ重稅ノ爲メニ自己ノ利益ヲ失ヒ勞力者ハ勞シテ功
 ナキニ至リ其他ノ職業ヲナスモノ利益ナキガ爲メニ各其職ニ

ハ債ノミヲ以
 テ非常費ニ供
 スル得失

勉強セザルニ至ルベケレバ一國ノ富源ハ全ク涸竭スルニ至ル
 ベシ故ニ民力ニ堪ヘザルノ重稅ヲ課スルハ決シテ策ノ得タル
 モノニアラザルナリ又第二點ノ民意ニ就テ述ベンニ租稅ヲ出
 スハ國家ノ爲メニ盡スノ義務ナリト雖モ其人ニ取リテハ全ク
 無報酬ナリ而ルニ公債ノ募集ニ應ズルハ其元金ノ償却ヲ得ル
 ハ勿論年々利子ヲ得ラル、ガ故ニ即チ各人ノ利己心ニ訴ヘテ
 之ヲ募集スルモノナルガ故ニ各人ハ強勉節儉シテ其募集ニ應
 ズベシ是ヲ以テ決シテ一國ノ富源ヲ乾涸スルコトナカルベキ
 ナリ故ニ曰ク非常ノ經費ヲ租稅ノミヲ以テ支辨スルハ策ノ得
 タルモノニアラズト

二、非常費ハ悉ク公債ヲ以テ支辨スベキモノナルカ、悉ク公
 債ヲ以テ之ヲ支辨スベシト主張スルモノ、説ニ云ハク戰時ニ
 アリテハ或ハ戰爭ニ從事スルモノアリ或ハ糧食ヲ送ルモノア

リ此等ノ人々ノ食并ニ兵器ヲ支辨スルハ到底人民ノ堪フル處ニアラズ戰爭中ハ人民ハ皆ナ忙シキモノナルガ故ニ此時ニ當リ新稅ヲ起シ若クハ舊稅ノ率ヲ高メテ人民ヲ苦シムルヨリハ寧ロ公債ヲ起スニ如カズト然レモ租稅主張論者ノ云ヘル如ク現世ノ負擔ハ現世ノ人民之ヲ負擔スルノ義務ヲ有シ且ツ國民ノ贊成全意スル所ノ戰爭ナレバ國民ハ平素ヨリ幾分カ高キ租稅ヲ喜ンデ拂フベク之ニ加フルニ愛國心ノ盛ニ刺戟セラル、ノ折柄ナレバ非常ノ負擔ヲ幾分カ租稅ニテ支出スベシ租稅ニテ支辨シ得ラルベキモノナルニ殊更ラニ公債ノミニ依頼スルハ決シテ策ノ得タルモノニアラザルナリ又ボリユー氏(佛國ノ財政學者)ハ云ヘタク鐵道築港其他ノ費用ヲ支辨スル爲メニ起ス所ノ公債ハ概子利益ヲ后世ニ傳フルモノナレバ其負擔モ亦タ后世ニ傳フベシ故ニ公債ヨリ生ズル負擔ヲ后世ノ人ニ荷ハ

シムベシト而レドモ后世ハ后世ニ於テ改良スベキノ事項アリテ各時代夫々ノ負擔アルヲ以テ殊更ラニ今世ヨリ負擔ヲ傳ヘテ后世ノ負擔ヲ重カラシメ其發達ヲ害スルヲ要セザルナリサレバ公債ノミニテ以テ悉ク非常費ヲ支辨スベシト云ヘル説ハ租稅ノミニテ以テ支辨スベシト云ヘル説ト全ジク共ニ併説タルヲ免レズ

租稅公債併用説

三、公債及ビ租稅ヲ併セ用ヒテ非常費ヲ支辨スベシトノ説、非常ノ費用ヲ支辨スルニ專ラ租稅ノミニ若クハ專ラハ公債ノミニテ支辨スルノ不可ナルヲ知ラバ如何ニシテ國家非常ノ經費ヲ支辨スベキヤト云フニ矢張り國家ノ收入ハ租稅若クハ公債ノ二途ニ出テザルヲ以テ此二者ニ由リテ其經費ヲ支辨セザルベカラズ吾輩ハ租稅若クハ公債ニ由リ非常費ヲ支辨スルノ不可ナルヲ説クモノニアラズシテ專ニ其一ニ由リテ支辨セント

スルノ不可ナルヲ唱道スルモノナリ二者ヲ併セ用ヒテ其宜キニ適センコトヲ主張スルモノナリ然ラバ二者ヲ併セ用フルノ法方如何曰ク第一租税第二短期公債第三長期公債ノ順序ヲ逐フテ之レヲ用フルヲ可トス先ツ非常費ヲ要スル場合ニハ從來ノ租税ノ税率ヲ昂騰シ或ハ新税ヲ起スヲ可トス而シテ此税源ヨリ來ル所ノ收入ヲ以テ非常費ヲ支辨スル能ハズサレバトテ尙ホ一層其税率ノ度ヲ高クスルトキハ人民ノ生計ヲ苦シメ或ハ一國ノ生産ヲ害シ遂ニ税源ヲ涸涸シ國富ノ發達ヲ害スルノ一顧アルトキハ斷ジテ三四年乃至七八年ニ渉ルノ短期公債ヲ發行シテ其急ニ應ズベシ然レドモ戰爭數年ニ涉リ長ク非常ノ經費ヲ要シ迎モ短期公債ノミニテ非常費ヲ支辨スル能ハザルトキハ更ニ一步ヲ進メテ長期公債ヲ募集スベシ 英國ニテハ非常費ヲ支辨スル爲メニ平時ニ於テハ所得税ノ税率ヲ低下シ置

キ一朝事アルニ臨ンデハ此税率ヲ高メ非常ノ需求ニ應ズル或ル格段ナル租税ノ税率ヲ殊更ラニ低下スルヨリモ殊ニ所得税ノ如キ最モ佳キ租税ノ税率ヲ低下シ置クヨリモ一般ノ租税ノ税率ヲ一様ニ低下シ置キヲ可トスル説アリ 何レニシモ低下シタル税率ヲ高メ若クハ新税ヲ起シテ非常ノ需要ニ應ズルヲ至當ノ順序ナリトス但シ新税若クハ税率ヲ高メタルヨリ生ズル收入ニシテ未ダ國庫ニ入ラザル前ニ之ヲ支出スルノ必要起ルトキハ三四ヶ月乃至七八ヶ月ノ短期公債ヲ起スコトアルベシ租税ヨリ短期公債ニ移リ短期公債ヨリ長期公債ニ移ルノ標準ハ如何ニト云フニ舊税ノ税率ヲ高メタル場合ニ租税ノ實收高ガ増率ト比シキ割合ヲ以テ増加セザルトキ(例ハバ是マデ百分ノ二ノ税率ヲ増シテ百分ノ五トナシタル場合ニ其實收高二倍ナラザルトキノ如シ)又新税ヲ起シタル場合ニ精確ノ豫

擔テ后世ニ殘シ財政上決シテ策ノ得タルモノニアザルナリ之
 ニ反シテクリミヤ戰爭費用ノ支出方法ハ全ク宜シキヲ得タル
 モノナレバ今之ヲ詳説センニ全戰爭ノ初時ニ於テハ租稅ノミ
 ニテ支辨シタリシガ費用漸ク多ク加ヘタレバ遂ニ千八百五十
 四年六月ヲ初メ三回ニ於テ三ヶ年乃至五ヶ年間ニ償還スベキ
 短期公債三千四百八十八萬圓餘ヲ發行セリ然レドモ元來短期
 公債ハ一時ニ必需ノ金高ヲ得ルノ便アルニ相違ナキモ其償還
 年限短キニ過ギ戰爭數年ニ涉レバ或ハ戰爭中ニ仕拂ノ期限ノ
 到ルヤモ計ラレズ若シ仕拂期限到着セズトスルモ戰爭後數年
 間ハ民力凋弊ノ折柄ナレハ僅々數年間ニ於テ巨額ノ費用ヲ支
 出スルハ到底民力ノ堪フル所ニアラズ故ニ短期公債ノ額ヲ前
 ニ述ベタル三千四百八十八萬餘圓ニ限リ其餘ノ費用ハ永遠公
 債ニ由リテ支辨セリ其額一億四千五百萬圓トスサレバ英國政

府ハクリミヤ戰爭費用總計三億四千六百餘萬圓ノ中一億四千
 五百萬圓丈ケテ永遠公債ニ取リ其他ハ租稅及ビ短期公債ヲ以
 テ支辨セリ故ニ現世ニ於テ負擔シ得ラル、丈ケハ之ヲ負擔シ
 只其力ノ足ラザル部分ノミヲ后世ニ殘シタルモノト爾ツベク
 賦ニ財政ノ道ニ合ヘルモノト爾ハザルベカラズ
 之ニ反シテ佛國政府ノ實行シタル非常費支出法ハ實ニ財政學
 者ノ非難ヲ免レザルモノナリ全政府ハ非常費ヲ悉ク公債ヲ以
 テ支辨シ敢テ増稅ノ事ヲナサザルノミナラズ却リテ減稅ヲナ
 シタルモノナリ全政府ハ一方ニハ公債ヲ募集シナガラ一方ニ
 ハ減稅ノ事ヲ行ヒ以テ當時ノ人心ヲ收攬スルコトノミニ汲々
 トシ敢テ后世ノ負擔ヲ慮ラザルモノ、如シ夫レ減稅ノ事タル
 固ヨリ美譽ナリ敢テ非難スベキニアラズ然レドモナスベカラ
 ザルノ減稅ヲナシ國庫餘裕ナキニ恣ニ減稅ヲナシ而シテ一方

ニハ公債ヲ募集スルトハ豈ニ解スベカラザルノ甚シキモノニアラズヤ豈ニ后世ノ負擔ヲ慮ラザルノ淺見ニアラズヤ宜ナルカナ公債ノ額漸々増積シテ今日國民之レカ負擔ニ苦ムノ甚キヤ西曆千八百六十二年ヨリ千八百七十年普佛戰爭ニ至ルノ時期ニ於テ佛國政府ハ公債ヲ募集スルコト三回其額合計三千五百六十萬圓其實際借入額二億六千六百萬圓ニシテ毎年ノ利子九百十七萬圓餘トス又千八百七十年ヨリ千八百八十六年ニ至ルノ時期ニ於テ公債ヲ募集シタルコト五回ニシテ元金十四億四千萬圓之ガ年々支拂フベキ利子三億三千八百萬圓餘トス公債ヲ募集スルコト斯ノ如ク巨額ナリ而ルニ租稅ヲ見ルニ或ハ其稅ヲ廢シテ其稅ヲ起シ或ハ其ノ稅率ヲ減シテ其ノ稅率ヲ増セシ等數多ノ變動アリシニモ係ラズ其大體ヨリ觀察スルトキハ此等公債募集ノ年間ニ於テハ佛國ノ租稅ハ大ニ減少セリト

云ハザルベカラズサレバ前々ヨリ論述シタル如ク非常費ヲ支出スルニハ成ル丈ケ租稅若シクハ短期公債ヲ以テシ餘儀ナキ場合ニアラズンバ長期公債ヲ募集シテ負擔ヲ后世ニ殘スベカラズトノ原則ハ全ク實行セラレザルモノ、如シ豈ニ歎ズベキノ至リナラズヤ財政學者ノ之ヲ非難スル亦タ宜ベナリト云フベキナリ

非常ノ費用ヲ支辨スル方法ノ原則斯ノ如シ而ルニ或ル論者ハ非常費ヲ支辨スルニハ非常稅ヲ起シテ一時ニ之ヲ支辨スベシト論セリ千八百七十年普佛戰爭ノ後佛國ハ普國ニ向ヒテ十億圓ノ債金ヲ支出セサルベカラズ此債金支出ノ方法ヲ議スル時ニ當リ或ル國會議員ハ論ジテ曰ク我佛國々民ノ財產價格ヲ合計スレバ決シテ二百億圓ニ下ラザルベシ今マ之ガ二十分ノ一ヲ出セバ忽チ二十億圓ノ債金ヲ出スコト易ヤタルノミ故ニ財

産ノ二十分一ノ非常税ヲ課シ一時ニ之ヲ支辨スルニ如カズト
 甚ダ愉快ナル説ナリシカバ之ニ賛成ヲ表スル人モ少カラザリ
 シト雖モ此説タル到底實際ニ行フベカラザルノ説ナリ然ル所
 以ニ二個ノ理由アリ國民ノ財産ヲ精密ニ調査スル能ハザルコ
 ト及ビ假リニ調査ヲ得ルトスルモ國民ノ財産ハ悉ク現金ニア
 ラザルコト之レナリ夫レ國民ノ財産ハ其種類多シ一々之ヲ精
 密ニ取調アル能ハズ精密ニ調査セザレバ不公平タルヲ免レズ
 何ゾ又二十分一ノ如キ非常ノ重税ヲ課セラル、トキハ人々其
 財産ヲ隠蔽シ到底之ガ精確ナル調査ヲナシ能ハザルナリ若シ
 假リニ之ヲナシ能フトスルモ國民ノ財産ハ現金ニアラザレバ
 一時ニ租税ヲ納ムルヲ得ズ設令ヘバ二十萬圓ノ不動産ヲ有ス
 ル人ニ向ヒ俄ニ一萬圓ノ租税ヲ納ムベシト命ズルトキハ或ハ
 直チニ之ヲ納メ得ル人アルベシト雖モ十中ノ八九ハ決シテ納

ムル能ハザルベシ之ヲ納メントスレバ他ヨリ借金ヲセザルヲ
 得ズ斯ク國中ノ多數ガ借金セントスルトキハ借金ノ需用大ナ
 ルガ爲メニ借入ノ不便不利ハ實ニ計ルベカラザルモノアリ其
 不利ナルコト政府ノ公債ニ對シテ年々利子ヲ拂フモノニ幾倍
 ナルヲ知ルヘカラズ故ニ非常税ヲ課シテ一時ニ國民ヲ苦シメ
 ンヨリハ公債ヲ募集シテ其急ヲ補ヒ漸次財政ノ宜シキ見テ之
 ヲ完済スルニ如カズ

上來論述シタル如ク非常費ヲ全ク公債ニノミ依頼スルハ不可
 ナリ又非常税ヲ課スルモ不可ナリ二者兩端共ニ不可ナリ出來
 得ル丈ケ租税ヲ以テ非常費ヲ支出シ氏力ノ之ニ堪ヘザルニ至
 リテ公債ヲ募集ス二者ノ調合至リテ雖シ財政家タルモノ時ニ
 臨ミテ其宜シキヲ制セザルベカラズ

第六章 國債ノ區別

應募者ノ感情
上ノ區別

愛國公債

強迫公債

佛國ノ財政學者ホリユ！氏ハ公債ヲ分ツニ二個ノ標準ニ據レ
 リ一ハ公債ノ性質上ヨリ一ハ公債ノ契約上ヨリ區別スルモノ
 ナリ前者ハ應募者ノ感情ノ點ニ於テ其區別ヲ存シ后者ハ償還
 期限ノ點ニ於テ其區別ヲ存ス

夫レ愛國公債ナルモノハ國民愛國ノ感情ニ訴ヘテ募集スルモ
 ノナリ愛國ノ感情盛ナルトキハ應募者多キモ抑モ此感情ハ時
 ト場合ニ由リ大ニ異ナルモノナレバ財政家ハ事ニ此ニ依頼ス
 ルヲ得ズ此方法ニ由ルトキハ或ハ低下ナル利子ヲ以テ或ハ額
 面ヨリ高ク公債ヲ賣却シ得ルモ此感情ヲ起スハ自然ノ力ニシ
 テ決シテ財政家ノ左右シ得ザル處ナリサレバ愛國公債ハ財政
 上ノ器具トナスニ適セザルナリ

次ニ強迫公債ヲ述ベンニ此公債ハ政府ノ威壓ニ恐レ政府ヨリ

任意公債

蒙ラサルベキ危險ヲ免ル、爲メニ應募スルモノナリ人民ノ利
 己心若クハ愛國心ニ訴フルニアラズシテ人民ノ畏怖心ニ由リ
 公債ヲ募集スルモノナレバ其不正ノ方法タル固ヨリ論ヲ俟タ
 ズ然レドモ各國ノ政府財政困難ノ時ニ當リテハ往々此方法ヲ
 用ヒ壓制借入即チ強借ヲナシタルノ事實ハ歴史上ニ昭然タリ
 我國ニテモ封建時代ニ於テ往々御用金ト稱シテ行ハレタルモ
 ノナリ此方法ハ實ニ道義ニ反スルノミナラズ到底多額ノ金額
 ヲ募集スル能ハザル處ナルヲ以テ今日開明諸國ニ於テハ此方
 法ヲ採用セザルナリ

今日開明諸國ニ盛ニ行ハル、モノヲ任意公債トス此公債ハ其
 利子ノ割合元金償還ヲ期日等ヲ廣示シ之ヲ以テ利アリトスル
 モノハ來リテ募集ニ應ゼヨトテ全ク人民ノ利己心ニ訴ヘテ之
 ヲ募集スルモノナル故ニ多額ノ公債モ容易ニ募集シ得ベク且

ツ募集ニ應ズルト應ゼザルトハ公ク應募者ノ自由意志ニ一任スルモノナルヲ以テ開明自由國ニ行ハルベキ方法ナリトス以上ノ通り應募者ノ感情ヲ基本トシ公債ヲ分チテ愛國強迫任意ノ三種トセリ愛國ノ感情ハ其國民ニアラザレバ起ラズ政府強迫ノ力ハ國內ノ人民ノ上ニアラザレバ行ハレズ二者共ニ一國內ニ限タル、ノ方法ナルモ任意法ハ利己心ニ訴フルモノナルヲ以テ國ノ内外ヲ問ハス何人ニテモ之ガ募集ニ應ズルコトアルベシ故ニ任意法ハ外國ノ資本ヲ輸入スルノ器具トナスヲ得ベシサレバ一國財政困難金融必逼ノ場分ニ此方法ニ由リテ外資ヲ輸入スベキナリ

サテ契約ノ條件即チ償還年限ノ上ヨリ公債ヲ區別シテ二トス短期公債流動公債及ビ長期公債是レナリ短期公債トハ大藏省證券郵便局貯金預金局預リ金ノ類ヲ云ヒ其短期ト云フ所以ハ

契約上ノ區別
短期公債

永遠公債

其償還期限二三ヶ月乃至一二年若クハ五六年ノ短期ナルヲ以テナリ其流動公債トハ其發行額最初ヨリ確定シタルモノニアラズシテ外部ノ情況ニ由リ常ニ變動スルヲ以テナリ長期若クハ永遠公債トハ其償還期限四五十年若クハ之ヨリ長期ナルカ若クハ償還ヲ永遠ニ期シテ最初ヨリ年限ノ定マラザル如キモノヲ云フ其確定公債ト云フハ其發行額最初ヨリ法律ニ由テ之ヲ確定スルヲ以テナリ斯ノ如ク其償還年限若クハ發行額ノ確否ニ由リテ公債ヲ分類セリ次ニ短期公債中ノ最モ重モナルモノヲ大藏省證券トス此證券ヲ發行スルノ必要アル所以ハ凡ソ憲法國ニテハ會計年度ノ始マラザルニ先チテ歲計豫算ナルモノヲ定メ此豫算ニ由リテ一ケ年間ノ財政ヲナスモノナリ而ルニ歳入ノ未ダ國庫ニ入り來ラザルニ先チテ歳費ヲ支出スルノ必要ヲ生ズルコトアリ例セバ我國ニテ地租ノ國庫ニ入り來ル

八十二月若クハ一月ヨリ後ナルニ六七月頃ニ許多ノ歳出ヲ要スルコトアリトセンカ地租ニシテ國庫ニ入り來ラバ之ヲ以テ歳出ニ充ツルコトヲ得ルモ未ク地租徵集期ニ到ラザルヲ如何センサレバトテ漸ク二三ヶ月ノ急ヲ補フガ爲メニ堂々タル法律ヲ設ケテ公債ヲ募集スルハ決シテ策ノ得タルモノニアラズ茲ニ於テ便宜上大藏省證券ヲ發行シ其所得ヲ以テ歳出ニ充テ后日歳入ノ入り來ルヲ待チテ大藏省證券ヲ償却スルノ方法ヲ設ケタルナリ是レ即チ二三ヶ月若クハ五六ヶ月内ニ償還ヲ期スル所ノ短期公債ヲ發行スル所以ナリ次ニ三四年若クハ數年ヲ期スルノ短期公債ヲ發行スル必用ハ何レノ點ニアリヤト云フニ歳計豫算ハ常ニ歳出入相平均スルヲ要シ何々ノ收入ヲ以テ何々ノ費用ニ充ツルトテ豫メ其出入ノ目ヲ定ムルモノナリ而ルニ暴風洪水若クハ不景氣等ノ諸原因ヨリノ豫算ノ如ク收

入ヲ得ル能ハザルコトアリ例セバ地租四千萬圓ト歳計豫算表ニ定メアルモ海嘯ノ爲メニ免稅地ヲ生ジ漸ク三千八百萬圓ノ歳入ノミアリタリトセンカ其歳入豫算ヨリ二百萬圓ヲ減シタルヲ如何セン是ニ於テ一年度ノ終リニ於テ二百萬圓ノ不足ヲ生ゼザルヲ得ズ此不足ヲ補フ爲メニ三四年若クハ數年内ニ償還ヲ期スル短期公債ヲ發行シ爾后數年間ニ於テ其公債ノ償還ヲ計リ以テ財政ヲ調理ス、短期公債ノ必要斯ノ如シ宜ベナルカナ各國ニ於テ盛ニ行ハル、ヤ、次ニ郵便局貯金、預金局預金ハ人民ノ貯蓄心ヲ獎勵スル爲メニ設ケタル方法ナレド政府ハ其貯金ヲ拂戻スノ義務ヲ有スルモノタルヲ以テ公債ノ一種タルヲ免レズ、此等預金ノ類ハ全ク人民ノ貯金ヲナスノ多少ニ由リテ定マルモノニシテ政府之ニ關係スルヲ得ズ全ク人民ノ意志即チ外部ノ情況ニ由リテ定マルモノナリ又大藏省證券モ暴風洪

水不景氣等ノ外部情況ニ由リテ其發行高ナ異ニセザルベカラザル故ニ以上ノ者ハ共ニ發行額最初ヨリ確定スルヲ得ズ是レ流動公債ト名クル所以ナリ

確定公債

確定公債ヲ分チテ償還時期ノ證書發行當時ヨリ確定シタルモノト確定セザルモノトノ二トス償還時期ノ確定シタルモノヲ有期定期支拂有期一時支拂及ビ一生年金ノ三トシ償還時期ノ確定セザルモノヲ永遠公債及ビ有期隨時支拂公債ノ二トス次下ニ於テ之ヲ説明シ併セテ其利害ヲ討究セン

有期定期支拂公債

有期定期支拂トハ或ル一定ノ年限ヲ償還期限ト定メ此年限内ニ毎年一定ノ額ヲ支拂ヒ以テ完済スルノ方法ナル故ニ政府ハ毎年其償還ヲ怠ルヲ得ズ從ツテ公債充積スルノ憂ヒナキヲ以テ年々歲計ニ餘裕ヲ生スル國ニ於テハ此方法ニ由ルヲ最モ宜シトス然レモ一利アル所ハ一害ノ存スル所ニシテ年々ノ償還

額常ニ一定スル故ニ財政困難國庫欠乏ノ場合ニハ大困難ヲ生ズルヲアリ且ツ又政府ニ餘裕ヲ生ジ公債ヲ償還セントスルモ償還年限ヲ動かカスヲ得ズ從ヒテ高利ノ公債ヲ償還シテ低利ノ公債ニ借換ユルヲ得ザルノ不便アリ今日各國ニ於テ此方法ヲ用フルコト稀レナル所以ナリ

有期一時支拂公債

有期一時支拂法ハ或ル一定ノ年限ヲ經過シタル后ニ一時ニ悉皆償還スルノ方法ニシテ其年限間ハ償還スルヲ得ザルヲ以テ其年限内ニ歲計餘裕ヲ生ズルコトアルモ償還スルヲ得ズ故ニ亦タ借換ヲ行フコトヲ得ズサレバトテ一定ノ期限ニ到着スレバ其時ニ如何ホ下財政困難ナルモ一時ニ全額ヲ償却セザルヲ得ズ不便ヲ極ムルノ方法ト云フベキナリ

一生年金

一生年金トハ拂込人即チ應募者ノ一生年間同一ノ額ヲ政府ヨリ支拂ヒ以テ最初募集シタル公債ヲ償却スルノ方法ナリ應募

者ハ一生存年間毎年同一ノ額ヲ請取リ自己生計ヲ營ミ得ルヲ以テ自己ノ死后ニ至リ全ク其元金ヲ失フト雖モ決シテ頓着ナキ獨身者ノ如キハ喜ンデ此募集ニ應ズルナリ此種ノ公債ハ殆ンド生命保険ニ比シキモノナリ此方法ハ昔時盛ニ行ハレシカド漸次大ニ減少セリ英國ノ一例ヲ舉ゲンニウキルリアム第三世ノ時ニ百磅ノ拂込ニ對シ拂込人若クハ名指人ノ一生存年間年々十四磅ヲ支拂フコトヲ約束シ百萬磅ノ公債ヲ募集シタルコトアリト云フ

トントン制度

年金中ニ一種奇妙ナル方法アリ發明人ナル伊國トントンナル人ノ名字ヲ取リテ其名トシタルモノナリトントン氏以爲ラク人ハ概子他人ヨリ長壽ヲ保ツトノ慾望心ヲ有スルモノナリサレバ最モ長壽者ニ多額ノ金員ヲ與ヘンコトヲ約スレバ誰モ彼モ最長壽者トナシテ其利益ヲ一獲セントテ募集ニ應ズベシト

即チ同齡ノ人ニ同一年金ヲ得ラル、又ケノ公債證書ヲ購求セシメ其内ニ死亡者アリタルハ其人ノ請取ルベキ丈ケノ年金ヲ生殘者ノ頭割ニ配賦スルコトヲ約シテ公債ヲ募集スルノ方法ヲ考ヘ出セリ此方法ハ英佛諸國ニ行ハレタリ西曆千六百八十九年佛王ルイ第十四世ノ時此方法ヲ用ビテ貳拾八萬圓ノ年金ヲ支拂スベキ丈ケノ元金ヲ募集セリ其方法ハ年齢一歳ヨリ七十歳ニ至ルマデノモノヲ分チ十四級トシ百圓ノ元金ニ對シテ拾圓ノ年金ヲ賦スルノ法ナリ西曆千六百九十六年再ビ此方法ヲ用ヒテ公債ヲ募集セリ而シテ西曆千七百廿六年ニ到リ此二回ノ應募者悉ク死亡シテ只僅ニ一人ノ婦人ヲ殘シタルノミ此婦人ハ兩回ニ各六拾圓ヲ拂ヒ込ミ壹萬四千七百圓ノ年金ヲ請取ント云フ斯ル幸運ヲ僥倖セントテ少々利子低ク割合惡キモ應募スルモノアルガ故ニ此方法ヲ用フルトキハ政府ニ幾分

有期限時支拂

カ利益ヲ得ラルベキナリ
 有期限時支拂トハ或ル年限迄ノ中ニハ何時ニテモ政府ノ都合ニ由リ公債ヲ償還シ得ルノ方法ナリ例セバ我國ノ整理公債ハ五ヶ年据置キ其翌年ヨリ向フ五ヶ年内ニ抽籤ヲ以テ償還スト云ヘルガ如シ此方法ハ財政上好便利ナルモノト云ハザルヲ得ズ或年限例セバ五ヶ年内ニ是非償還スルノ義務ヲ政府ニ負ハシムル故ニ政府ハ公債償還ニ勉強スベク且ツ又右年限内ハ何時ニテモ政府ノ都合次第ニテ償還シ得ルヲ以テ市場ノ金利公債ヨリ低利ナル時ニハ此低利ノ金員ヲ借リ來リテ高利ノ公債ヲ償還スルコト即チ借換ノ便利ヲ有スルノ方法ナリトス我國ノ公債ハ多ク此方法ニ由ル

永遠公債

永遠公債トハ永遠ノ間公債ヲ償還セズトノ謂ヒニアラズ只償還ノ時期ヲ全ク確定セズ何時ニテモ政府都合ニ償還ヲナシ得

ルノ方法ナリ此方法ハ英佛米ノ如ク政府ノ信用確固ナル邦國ニノミ行ハル、モノナリ古今經濟社界發達ノ跡ヲ考フルニ年々逐ヒ世ヲ重マルニ從ヒ富財ノ高チ増シ來ルト全時ニ金利次第ニ低降スルノ傾向アリ是レ歐米各國經濟史ノ歴々證明スル處ノ大勢ナリトスサレバ今年ニ於テ市場相當ノ利子ヲ以テ公債ヲ募集シ置クモ星移リ物變リ十年若クハ數十年ヲ經過スルトキハ市場ノ金利ト公債ノ利子ト一大徑庭ヲ生シ先ニハ市場相當ノ金利モ今ハ市場ノ金利ヨリ遙カニ高キ利子トナルコトアリ此時ニ當リ低利ノ新公債證書ヲ償還ノ高利ノ舊公債證書ヲ償還スルニ如カザルナリ歐米ノ諸國ハ此利益ヲ收ムルノ覺悟ヲ以テ公債ヲ募集スルノ初メヨリ何時ニテモ償還シ得ラル、ノ約ヲ定メ置クナリ即チ永遠公債若クハ定期隨時支拂法ニ由リテ公債ヲ募集スル所以ナリ公債ノ利害ヲ考定スルノ標準

ハ此借換ヲナシ得ルモノト然ラザルモノトニアリ借換ヲナシ能ハザルノ標準ハ他ニ餘程ノ利益アルニアラズンバ決メ行フベカラザルノ方法ナリ財政家豈ニ鑑ミザルベケンヤ永遠公債ノ利益夫レ斯ノ如ク大ナリ然レドモ一利ノアル處一害之ニ伴フハ天下自然ノ勢ナルカ一害トハ何ゾヤ永遠公債ハ政府ノ都合ニ由リ何時ニテモ償還シ得ルコトヲ定ムルモ毫モ政府ニ償還ノ義務ヲ負ハセザル故ニ或ハ政府償還ヲ怠リ時ニ公債堆積シテ遂ニ如何トモナス能ハザルニ至ルコト之レナリ財政家ニシテ德義ヲ守リ勉メテ償還ニ汲々タルコトアラバ蓋シ永遠公債ニ如クモノナカルベシ或人難シテ曰ク政府ハ自己ノ都合ニ由リテ償還スル故ニ政府ニハ至便ノ方法ナリト雖モ應募者ハ政府ノナス所ニ一任シ自ラ進ンデ償還ヲ促シ得ズ且ツ何時償還セラル、ヤモ前知スル能ハザル故ニ應募者ニハ極メテ不便

ナリト是レ一ヲ知リテニヲ知ラザルノ説ナリ何トナレバ開明諸國ニ於テハ政府ノ信用極メテ厚キガ故ニ公債證書ハ常ニ市場ニ於テ賣買セラル、モノナレバ所有者ハ何時ニテモ自己ノ好ム處ニ從ヒ證書ヲ賣却スルヲ得ベシ苦ンデ政府ノ償還ヲ待ツノ必要ナケレバナリ

第七章 國債募集法

第一 額面募集及ビ額面以下募集平價募集及ビ呼價募集トモ云フ

額面募集或ハ平價募集トハ公債證書額面通りノ價格ヲ應募者ニ拂込マシムルヲ云ヒ額面以下募集或ハ呼價募集トハ證書額面ヨリ以下ノ價格ヲ拂込マシムルモノヲ云フ例ヘバ額面百圓

平價募集
呼價募集

呼價募集ノ利

ノ證書ニ對シテ百圓ヲ拂込マシムルハ呼價募集法ナリ而シテ其公債ヲ償還スルニ當リテハ政府ハ平價呼價何レノ公債ニ對シテモ額面通りノ金額ヲ支拂ハザルベカラズ故ニ呼價應募者ハ九十圓乃至八十圓ノ拂込ニ對シテ百圓ノ償還ヲ受クルコトヲ得ルナリ此利益アルガ故ニ呼價應募者ハ市場ノ利子ヨリモ低キ利子ニテ満足スベシ例セバ明治十一年五月募集シタル起業公債ハ八十圓ノ拂込ニ對シテ額面百圓ノ公債證書ヲ請取タルカ故ニ當時市場ノ利子ハ七八分ナリシニモ拘ハラズ僅ニ六分ノ利子ヲ付シテ公債ヲ募集シ甚ダ其結果ヲ得タルガ如シ佛國ノ如キハ平價呼價ノ兩募集法ヲ併用シタリシガ故ニ其公債ノ利子ニ三分四分五分六分等ノ差別アリ蓋シ低利ハ公債ノ呼價ニテ募集シ高利ノ公債ハ平價ニテ募集シタルモノナルベシ

儲何故ニ平價募集ノ單純ナル方法ヲ採ラズシテ呼價募集法ヲ

採用スルヤト云フニ呼價募集法ニ由ルトキハ名義上其利子甚ダ低キガ故ニ一方ニハ政府信用ノ厚キコトヲ示シ一方ニハ人民ヲシテ公債ノ爲メニ多額ノ負擔ヲ受ケザルノ感想ヲ抱カシムルノ利アリ加之其他ニ財政上ニ一大利益アリ即チ少額ノ利子ニ對シテ多額ノ公債ヲ募集シ得ルコト是レナリ之ヲ説明セシニ單純ナル數理上ヨリ論ズレバ五朱利付ノ公債百圓ノ實價百圓ナルトキハ四分利付公債ノ實價ハ八十圓ニメ三分利付公債ノ實價ハ六十圓ナラザルベカラズ然レドモ實際市場ノ景況ハ之ト大ニ異ナリテ四分利付公債ノ實價ハ八十圓以上ニシテ三分利付公債ノ實價ハ六十圓以上ニアリトス是レ千八百五十四年佛國ニ於ケル實例并ニ千八百〇六年米國ニ於ケル實例ニ照ラシテ明白ナル事實ナルノミナラズ理論上ヨリ其然ル所以ヲ説明スルヲ得ベシ左ニ之ヲ述ベシ

今日文明各國公債ノ大部分ハ永遠公債若クハ長期隨時支拂公債トス此等ノ公債ハ政府財政ノ都合次第ニ由リ何時ニテモ償還シ得ラル、モノナルヲ以テ市場ノ金利ニシテ此等公債ノ利子ヨリモ低落スルトキハ政府ハ低利ノ金ヲ借り込ミテ高利ノ公債ヲ償還スルコトヲ勉ム即チ政府ハ常ニ公債借換ニ意ヲ傾クルモノナリ而シテ市場金利ノ低落スルハ經濟歷史上ノ明白ナル事實ニシテ年々低落スルノ傾向アルヲ以テ公債證書所有者ハ常ニ公債ヲ借換ヘセラル、ノ恐レアルモノナリサレバ何人モ此借換ヲ避ケンガ爲メニ呼價募集法ニ基キタル低利公債ヲ購求センコトヲ欲スルハ自然ノ勢ナリ今日設合ヒ利子ハ少々低クトモ后日借換ヲ行ハル、ノ場合少キ呼價募集法ヲ喜ビ割合ニ高價ヲ以テ呼價募集ノ公債證書ヲ求ムル者多シトス且ツ又呼價募集ノ應募者ハ其實際拂込ノ高ヨリモ多ク償却ヲ得ル

モノナル故ニ平價募集ノ利子ヨリモ低キ利子ノ呼價募集ニ應ズルモノ多シ之ヲ詳説センニ元來公債證書ノ價格ハ多少ノ變動アルモノナリ而シテ巨額ノ公債證書募集ノ片ハ其價格減少シ天下靜平ナルトキハ其價格ヲ増加ス即チ公債證書ヲ賣却スルトキハ發行ノ時拂込シ高ヨリモ多クノ價格ヲ得ベキナリ而ルニ平價募集ナレバ其價格面以上ニ昇騰スルヤ否ヤ政府ハ進ミテ借換ヲ行フニ由リ公債所有者ニ利益ナシ之ニ反シテ呼價募集ナルトキハ其價格設合拂込高ニ超過スルニ至ルモ額面ニ達セサル間ハ政府借換ヲ行ハザルベシ故ニ價格増加ハ全ク公債所有者ノ利トナル例セバ額面百圓ノ公債ヲ八十圓ノ呼價ニテ發行シ后チ八十五圓若クハ九十圓ニ昇ルトキハ全ク其所有者ノ利益トナルモ平價募集ニテ百圓ノ額面ニ百圓ヲ拂込ミタル後其價格上騰シテ百圓以上ニ至ルトキハ政府ハ忽チ借換ヲ

ナスガ故ニ所有者ノ利益トナラザルガ如シ呼價募集ハ應募者ニ此利益ヲ與フルガ故ニ平價募集ヨリ利子ノ割合少キモ之ニ應ズルモノ多キ所以ナリ

呼價募集ノ弊

呼價募集ニ伴フノ弊害ハ償還ヲ怠ラシムルト借換ヲナシ難カラシムルトノ二點ニアリ額面以下ノ拂込ニ對シテ額面ノ全部ヲ支拂フノ方法●由リ利子ヲ低ク定ムルヲ以テ人民ハ租稅ヲ出シテ低利ノ公債ヲ償還スルコトニ勉メバ利子低キガ故ニ今日勉メテ之ヲ賣却センヨリハ率々年々利子ヲ支拂ヒテ而シテ后世ヲシテ之ヲ賣却セシムルニ如カズトテ兎角意ヲ償還ニ用ヒザルナリ佛國ノ財政學者ホリユー氏ハ歐州各國ガ巨額ノ公債ヲ有スルハ重ニ此原因ニ由レリト云ヒ米國ノガラチン氏モ呼價募集ハ償還ヲ妨グルノ壁塞ナリト云ヘリ又此募集法ハ借換ヲ行ヒ難カラシム百圓額面ノ六分利付公債ニ向ヒ百圓ヲ拂

ヒ込マシムル代リニ百圓額面ノ三分利付公債ニ對シテ七十圓ヲ拂込マシムル場合ニ六分利付ノ公債ハ市場ノ利子が六分以下ニ降ルヤ否ヤ借換ヲ行ヒ得レドモ三分利付公債ハ市場ノ利子が六分ヨリ降り又ハ四分ヨリ降ルモ尙ホ借換ヲ行フ能ハズ三分以下ニ低落シテ漸ク借換ヲ行ヒ得ルノミ其難キコト甚シト云フベシ故ニ曰ク呼價募集ハ平價募集ニ比スレバ借換ヲ行フコト甚ダ難シト

借換ヲ行フコト已ニ難ク又タ償還ヲ怠ラシムルトセバ呼價募集法ノ平價募集法ニ及ハザルコト遠シト云フベシ而レドモ有期定期支拂法ノ如キハ其償還ニ一定ノ期限アルガ故ニ政府ハ到底借換ヲ行フコト能ハズ又其償還ヲ怠ル能ハズ已ニ此二ツノモノヲナス能ハズトセバ有期定期支拂法ニハ呼價募集法ヲ用フルモ決シテ害ナキナリ

保證拂

第二 保證拂及び拂込度數

政府ハ公債ヲ募集スル時ニ當リ其應募者ヲシテ各自應募額ヲ申出サシム而シテ其申出シト同時ニ全金額ヲ支拂フモノニアラズ只其應募セントスルノ額ヲ申出ノミ此申出ヲ慥ニ支拂ハシムル爲メニ其保證トシテ申出ト同時ニ若干額ヲ拂ハシム之ヲ保證拂ト云フ此保證拂ハ恰モ物品賣買ノ場合ニ於ケル手附金ノ如シ而シテ其額各國ニ於テ概子申出高ノ十分一内外トス此保證拂ヲナシタル殘餘ノ拂込度數ハ政府需用ノ緩急ト應募者ノ都合ニ由リテ定ムベキモノニシテ一定ノ標準アルニアラズ我國ニテハ概子二回ナリト云フ保證拂ヲナシタルモノニシテ跡拂ヲナササルカ若クハ第一回ノ跡拂ヲナシテモ其後ノ跡拂ヲ政府ノ明示シタル規限内ニ納メザルトキハ已ニ納メタル部分ヲ無効トシ政府ニ之ヲ沒收ス猶ホ一定ノ期限ヲ經過スル

拂込金没収

無減少法

トキハ手附金ノ効用ヲ失スルガ如シ又或ル場合ニハ一定ノ期限内ニ納メザルトキハ幾日ノ猶豫ヲ與ヘ其間ハ日數ニ應ジテ利子ヲ拂込マシメ猶豫期限ヲ超ヘテ尙ホ拂ヒ込マザルトキニ至リ初メテ已ニ納付シタル部分ヲ無効トシ之ヲ政府ニ没入スルノ制ヲ設クルコトアリ

第三 無減少法

細民小資本家ニ公債證書ヲ買ヒ易カラシムルト公債證書ヲ成丈ケ高價ニ賣却スルトノ二目的ヲ達スル爲メニ無減少法ヲ行フ
無減少法ニニアリーナ小額無減少ト云ヒ一チ高額無減少ト云フ小額無減少トハ公債證書募集ノトキニ當リ應募申出ノ高ガ募集ノ高ニ超ユルコトアルトキ例ヘバ千萬圓ノ募集ニ千五百萬圓ノ申出アリタルトキハ各應募者ヘ其申出高丈ケノ證書ヲ

高價無減少法

與フルヲ得ズ是於テ申出高ト募集ノ比例ヲ取り此比例ヲ以テ實際應募シ得ラル、ノ額ヲ申出人ニ配當セザルヲ得ズ即チ各申出人ハ其申出金額ニ對スル公債ヲ請取ルヲ得ズ然ルニ玆ニ例外ヲ設ケ小額ノ申込例ヘバ一口二百圓未滿ニ對シテハ申出高ノ全額丈ケ公債證書ヲ與フルトシ細民又ハ小資本家ヲシテ公債募集ニ應ジ易カラシムルヲ云斯ク細民ノ手ニ落ツルノ公債ヲ多カラシムルトキハ漸次公債ノ利益ヲ悟リ貯蓄心ヲ奮起スルニ至ルベシ細民中ニ斯心ノ奮起スルハ一國ノ爲メニ祝スベキコトニシテ之ヲ獎勵スルハ政府ノ本分ナリ

高價無減少法トハ中山道鐵道公債、海軍公債、整理公債募集ノ片ニ已ニ用ヒタル方法ニシテ申込高ガ政府ノ募集高ニ超過スルトキハ最も高價ニ申込ミシ者ヨリ漸次ニ證書ヲ交付シ政府ノ需用高ヲ充スニ至リテ止ム例セバ五分利付整理公債ヲ發行シ

タル場合ニ二百圓ノ額面ニ對シテ百十圓、百九圓、百何圓ヲ拂込マントスルモノ續々アリテ其申込總計募集高ニ超過スルトキハ百十圓百九圓ノ申込人ヨリ漸次ニ公債ヲ交付スルガ如シ此方法ハ實ニ政府ニ利益アルモノニシテ決シテ市場ノ利子ヨリモ高キ利子ニテ公債ヲ募集スルコトナシ今左ニ其實例ヲ示サン

海軍公債第一回 全第二回 整理公債第一回

| | | | |
|-------|----------|---------|------------|
| 募集額 | 五百萬圓 | 六百萬圓 | 千萬圓 |
| 申込高 | 千六百六十四萬圓 | 八百四十四萬圓 | 千六百三十三萬圓 |
| 内申込以上 | 千五百九十七萬圓 | 五百七十五萬圓 | 千五百七十三萬六千圓 |
| 發行價格 | 百圓 | 百圓 | 九十八圓 |
| 最高價格 | 百十圓 | 百五圓十錢 | 百五圓 |
| 實收高 | 五百十八萬七千八 | 六百四萬九千餘 | 千萬四千七百圓 |

第八章 國債借換

公債ノ利子ヲ支拂ヒ元金ヲ償却スルノ義務ヲ負擔スルハ政府
即チ一國々民ノ全体ナリトス今此利子ノ割合ヲ低減シ若クハ
元金ヲ償却スルハ共ニ一國民ノ負擔ヲ輕少ニスルモノナリ利
子ノ割合ヲ低減スルノ法之ヲ公債借換ト云ヒ元金ヲ償還スル
之ヲ公債償還ト云フ本章ニ於テ借換ノ事ヲ説キ次章ニ償還ノ
事ヲ論ゼントス

借換ハ政府公債ヲ償還シ得ルノ權利ヲ有シ而シテ當時市場ノ
金利其公債ノ利子ヨリ低クキトキニ初メテ行ハル、モノナリ
此時ニ政府ハ公債所有者ニ向ヒテ云フベシ是迄ノ公債ノ利子
ヲ低下シテ満足スルヤ若クハ元金ノ償還ヲ喜バル、ヤト二者
何レニテモ公債所有者ノ意見ニ任セテ借換ヲナスベキナリ借
換ハ決シテ政府ノ威力ヲ用ヒテ之ヲ行フモノニアラズ正道ニ

借換ハ政府ノ
權利モノ且ツ
義務ナリ

由テ人民ノ負擔ヲ輕減スルノ最良方便ナリトス英米諸國政府
ハ共同市場ノ金利公債證書ノ金利ヨリ下ルトキハ直チニ借換
ヲ行ヒ國費ヲ減ジ人民ノ負擔ヲ輕減セリ政府タルモノ常ニ進
ンデ之ヲ斷行スルノ責任ヲ有ス然ルニ奇ナルハ佛國共和國ナ
リ千八百七十八年ヨリ全八十三年ニ至ルノ間公債證書所有者
ハ政府ヲ威壓シテ借換ヲ行ハザラシメタリ

抑モ借換ヲ行フハ政府ノ權利ニシテ且ツ義務ナリ公債ニ種々
アリ有期定期支拂有期一時支拂若クハ年金ノ如キハ到底借換
ヲ行フコト能ハズ何トナレバ此種ノ公債償還ノ時期ハ募集ノ
當時ヨリ確定セラル、モノナルヲ以テ后日ニ至リ設ヒ市場ノ
金利下落スルコトアルモ此低利ノ金員ヲ借リテ彼ノ(高利ニモ
セヨ)公債ヲ償還スル能ハザレバナリ而ルニ有期隨時支拂并ニ
永遠公債ハ何時ニテモ政府ノ都合ニ由リ償還シ得ルノ定メナ

ルヲ以テ市場ノ金利低落シタルトキハ政府ハ直チニ下落シタル利子ノ公債ヲ新ニ募集シ其所得ヲ以テ高利ノ公債ヲ償還シ得ベキナリサレバ借換ヲ行ヒ得ルノ權利ハ何時ニテモ隨時償還シ得ルノ權利ニ伴ヘルモノナリ而シテ隨時償還シ得ルノ權利ハ募集ノ當時ニ於テ應募者ト政府トノ契約上ヨリ來レルモノナリ政府ハ此契約上ノ權利ヲ實行スルモノナル故ニ公債所有者ニ於テ借換ニ對シテ一言ノ不平ヲ唱フルノ道理ナカルベシ政府ニ於テ借換ヲ行フハ正道ノ權利ヲ實行スル者ト云フベキナリ又一方ヨリ觀察スレバ借換ヲ行フハ政府ノ義務ニシテ政府タルモノハ出來得ル丈ケ之ヲ行ハサルベカラサルノ責務ヲ有スルモノナリト謂ハサルベカラズ夫レ前ニモ述べタル如ク借換ハ低利ノ公債ヲ以テ高利ノ公債ヲ償還スルモノナル故ニ政府支拂ノ利子ノ高ヲ減少スルモノナリ設令ヘバ五朱ノ公

債ヲ新募シテ七朱ノ舊公債ヲ償還シタリトセバ其差ニ朱ノ利益ハ毎年國庫ノ利益トナルガ如シサレバ借換ハ公債ノ爲メニ生ズル人民ノ負擔ヲ輕減スルモノナリ政府ノ負擔ヲ減少スレハ取リモ重サズ人民即チ納稅者ノ負擔ヲ輕減スルモノナリ而ルニ若シ借換ヲ行ハザレバ國民ノ一部分ナル公債所有者ハ夫レガ爲メニ不正ノ利益ヲ得ルコトアルモ國民全体ナル納稅者ハ之レガ爲メニ重キ負擔ヲ荷ハザルベカラズ抑モ政府ハ一國全体ノ政府ナリ國民全体ヲ苦シメテ而シテ一部小數人ノ利益ヲ計ルベキモノニアラズ否ナ一部人民ノ利益ヲ剝奪スルモ人民全体ノ利益ヲ計ラザルベカラズ故ニ政府ハ借換ヲ行ヒテ國民全体ノ利益ヲ計ルベキ義務ヲ有スルモノナリ然ルニ佛國政府ハ私利ニ汲々タル一部人民ノ利益ヲ計リ斷然借換ヲ行ハザルハ實ニ不條理ノ甚シキモノナリ而シテ此不條理ニ陷ラシメ

タルモノハ全ク黨人政治ノ弊ニシテ偶々要路ニ當レル一部少數ノ人々カ自黨ノ爲メニ借換ヲ不利ナリトシ此不條理ヲ行ヒタルナリガソレニ至ル黨人政治ノ弊大ナルカナ

借換ヲ行ヒ得ル所以

借換ヲ行ヒ得ルノ條件即チ利子低落ヲ生ズルニ三個ノ原因アリ第一債子及債ヲ募集スルハ取時若クハ財政困難ノ時ナルヲ以テ金利高キモ此等ノ原因消滅スルトキハ金利從ヒテ下落スルコト之レナリ故ニ政府ハ取時若クハ財政困難ノ時ニ臨ミ金融必迫ノ場合ニ一時政令ヒ非常ノ高利ヲ以テ公債ヲ募集シ置クモ取時止ムカ若クハ財政緩裕ニ赴キ市場ノ利子低下スルニ至ラバ忽チ借換法ヲ行ヒテ高利ノ公債ヲ償還スベキナリ第二公債ノ需用之レナリ政府ノ信用愈確固ニ赴クトキハ公債ノ需用者次第ニ増加スルニ至ル例セバ貯蓄ヲナサントスルモノハ

公債ヲ買求シテ之ヲ蓄フルガ如シ今日佛國ノ如キハ此需用ニ應ズル爲メニ募集ノ時ニ當リ拂込度數ヲ多クシ資民ニシテ少々宛貯蓄ヲナサントスルモノニ便スルガ故ニ佛國人民概シテ公債證券ヲ購買シテ貯蓄ノ器具トナスニ至レルヲ以テ公債ノ需用ヲ増加セリ又身元保證金營業保證金ニ公債證券ヲ代用スルニ至リテ需用ヲ加大ナラシメタリ且ツ又銀行諸會社ノ如キ容易ク貨弊ニ交換シ得ベキ準備ヲ有セントスルモノハ又公債ヲ購買スルヲ以テ公債ノ需用愈大ナルニ至レリ需用大ナルトキハ政令ヒ低下ナル利子ノ公債ニテモ購買スルニ至ルベキヲ以テ公債ノ利子ハ自然ニ下落スルナリ第三ニ利足下落ノ最大原因ヲ富ノ増殖トス器械ノ發明交通運輸ノ便愈開ケ工商業ノ益々發達スルニ從ヒ國民ノ富資漸ク多キヲ加フルニ至ルベシ國民ノ富資饒多ナルトキハ其國ノ利子次第ニ減少下落スルモノ

ナリ富強ヲ以テ名アル英佛米諸邦ニ於ケル利子ノ低キヲ以テ
モ之ヲ知ルベキナリ市場ノ利子已ニ下落スレバ公債ノ利子亦
タ下落スルハ必然ノ勢ヒナリ以上ノ三原因相結着シテ常ニ利
子下落ノ原因トナルヲ以テ借換ヲ行フコトヲ得ベキナリ財政
整理シタル邦國ニ於テハ汲々トシテ借換ヲ行ヒ人民ノ負擔ヲ
軽減スルニ勉ム英國ノ如キハ昔時六釐ノ公債ヲ幾回ノ借換ヲ
行ヒテ今日ニテハ僅々二朱四分ノ三ノ利子トナセリ彼國世運
發達ノ大ナルニ從ヒ一般市場利子ノ下落ニ由ルト雖モ抑モ亦
タ財政家ノ機ヲ見變ニ臨ミテ借換ヲ行ヒ財務其宜シキヲ得タ
ルニアラザルヲ得ンヤ高利ノ公債ヲ有スル邦國ノ財政家ハ英
國ノ例ニ倣ヒ致々トシテ借換ニ盡力シ以テ國民ノ負擔ヲ輕減
スベキナリ

或人借換ヲ難シテ曰ク政府ニ於テ借換ヲ行ヒ低利ノ公債證書

借換ノ非難

トナスルハ市場ノ金利其影響ヲ受ケ從ヒテ下落セン金利ノ低
キハ工商業ノ利益ヲ薄クスルモノナレバ經濟社會不振ノ原因
ナリ政府タルモノ僅々ノ公債利子ヲ減少セントテ一國ノ工商
ヲ衰微セシムルノ理アランヤトテ痛ク借換ヲ攻撃スル人アリ
然ルニ又之ニ反シテ一派ノ論者ハ云ハク市場ノ金利低キトキ
ハ資本ヲ借り入レ易キ故ニ何人モ工商業ニ多額ノ資本ヲ卸シ
得ベク從ヒテ工商業ノ熾盛ヲ來スハ自然ノ勢ヒナリ而シテ市
場ノ金利ヲ低下スルハ公債ヲ借換フルニ如カズ否ナ市場ヨリ
モ低キ利子ノ公債ニ強イテ借換ヲナサシムルニ如カズトテ借
換ヲ行フベシト云フモノアリ此二派ノ論者中一ハ借換ヲ以テ
國家ノ經濟ニ利アリトシ一ハ害アリトナスモノニノ二者其見
ル所ヲ異ニスレドモ二者共ニ公債ノ借換ガ一般市場ノ金利ヲ
低下スルモノトナスニ至リテハ誤謬タルヲ免レズ夫レ借換ハ

其詳

市場ノ金利ヲ下落セシムルモノニアラズシテ市場ノ金利下落
シタル后ニ初メテ借換ヲ行フモノナリ借換ハ金利ヲ下落セシ
ムルノ原因ニアラズシテ金利下落ノ結果ナリサレバ公債借換
ハ決シテ經濟社會ニ害毒ヲ流スモノニアラズ又タ金利ヲ下落
セシムルモノニアラズ兩論者ノ説ハ共ニ誤謬タルヲ免レザル
モノナリ

借換ヲ行フニ必要ナル條件ノ一二ヲ述ベシニ借換ヲ行フ爲メ
ニ新ニ募集スル公債ノ利子ハ因ヨリ市場ニテ募集セザレ得ベ
キ最低ノ利子ナラザルベカラズ即チ市場相當ノ利割ナルヲ要
ス然ルニ茲ニ注意スベキハ公債ノ募集ニ應ズルモ或ハ他ノ工
商事業ニ資本ヲ放下スルモ資本家ニ取リテ同一ノ利益ナル場
合ニハ或ハ舊公債ノ償還ヲ元金ニテ請求シ以テ商工業ニ從事
スルモノナシトセズ政府ハ此輩ニ對シテ勿論現金ヲ交附スル

ノ義務ヲ有スルモノナリ若シ斯クノ如ク元金ヲ要求スルモノ
多キトキハ政府ハ借換ヲナス毎ニ多額ノ現金ヲ有セザルベカ
ラズ是ニ於テ此煩擾ヲ避クル爲メニ政府ハ資本家ガ他ノ事業
ニ資本ヲ放下スルヨリモ新公債ノ募集ニ應ズルヲ以テ利益ア
リトスルカ如キ條件ニテ公債ヲ募集スルヲ要ス即チ資本家ヲ
シテ進ンデ新公債募集ニ應ズルノ策ヲ執ラザルベカラズ之ヲ
ナスニ敢テ公債ノ利子ヲ別段ニ高クスルニ及ハズ向後何ヶ年
間ハ据置キ其年限間ハ決シテ再ビ借換ヲ行ハザルベシトノ保
證ヲ與フルヲ以テ足レリトス此保證ヲ與フルトキハ其保證年
間ハ甘ンジテ一定ノ利子ヲ安全ニ得ラル、ヲ以テ利足ノ不定
ナル工商業ニ從事スルヨリモ公債ヲ買フニ如カズトテ舊公債
ニ向ヒテ元金ヲ要求セズ其代ハリニ新公債ヲ要求スルモノ多
カルベシ然ルトキハ政府ハ借換ノ爲メニ元金ヲ備フルヲ要セ

ズ甚ダ簡便ニ借換ヲ結了シ得ベキナリ再ビ借換ヲ行ハザルベシトノ保證年限ヲ何ケ年ト定ムベキヤ其時勢ニ由リテ定ムベキコトニシテ一定不偏ノ規律アルニアラズ只資本家ナシテ舊公債ノ代ハリニ新公債ヲ請取ラシムルノ誘因タルヲ得バ足レリトス若シ市場ノ金利ニシテ后来急速ノ進歩ヲ以テ下落スルノ傾向アリトセバ此保證年限ヲ短縮シテ再ビ借換ヲ行ヒ得ルノ基礎ヲ作置クベシ之ニ反シテ金利ハ永ク依然トシテ下落ノ傾向ナシトセバ長キ年限ヲ以テ保證年限トナスモ差支ナシ此等ノ事ハ總テ時々ノ狀勢ニ由リテ決スベキコトニ概論シ得ベキ性質ノモノニアラザルナリ、金利低落ノ度ニ緩急ノ別コソアレ金利ハ次第ノ下落スルノ傾向アルハ前ヨリ已ニ屢論スル所ノ如シサレバ今年定ムル所ノ同一ノ利子ヲ以テ后来マデ長ク永續スルハ資本家即チ貸方ノ利益ナリ此利益アル故ニ長

各國借換實施ノ歴史

キ間債還ルセズトノ保証アル公債ハ現今市場ノ利子ヨリ少シク低クキモ資本家ハ喜ンデ公債募集ニ應ズベシ是ニ於テ時トシテ后日借換ヲナシ得ザルコトヲ願ミズシテ長期ノ年月間借換ヲナサズトノ保證ヲ與ヘテ當時市場ノ利子ヨリモ遙カニ低キ利附ノ新公債ヲ發行シ借換ニ由リテ大ナル利益ヲ得タルコトヲ稱セントスルノ財政家ナキニシモアラズ然レドモ是レ財政ノ宜シキヲ得ザルモノナリ借換ヲナスニ當リテハ新公債ノ利子ハ須ク當時市場ノ利子ト同一ニナシ置キ且ツ保證年限ヲ成ル丈ケ短クシテ以テ后日再ビ容易ニ借換ヲナシ得ルノ地ヲ作り置カザルベカラス一時些少ノ利子ヲ減少セントシテ再借換ヲナスニ難カラシムル如キハ財政家ノ決シテナスベキコトニアラザルナリ

以下ニ於テ各國政府ノ行ヒタル借換ニ關スル歴史ヲ列叙セン

ニ抑モ英國ニテ千七百年前ニアリテハ市場ノ金利六朱以上ナリシヲ以テ同國公債ノ利子モ亦タ六朱以上ニ出デタリシモ國富ノ發達ト共ニ一般市場ノ金利漸次下落シ千七百年ノ後チユアリテハ五朱ニ低下セリ千七百十四年ニ於テ已ニ法定利子ヲ五朱ト定メ千七百十五年ニ於テ募集シタル公債ノ利子ヲ五分トナセリ斯クノ如ク千七百年前ノ公債ニ向ヒテ拂ヒ來リタル年六朱ノ利子ハ今ヤ市場ノ利子即チ五朱ヨリモ高キガ故ニ當時ノ大藏大臣ロバルト・ワルポール氏ハ低利ノ新公債ヲ起シテ高利ノ舊公債ト借換フルコトニ決シ六分利付ノ公債ヲ減ジテ五分利付ノ公債トナセリ是ニ於テ英國政府年々支拂所ノ公債利子百拾壹萬圓ノ巨額ヲ減少セリ借換ノ功亦タ大ナルカナ其後千七百十七年ヲ初メトシ全五十七年ニ至ル四次ノ借換ヲ行ヒ公債ニ對シ全國政府年々支拂フ處ノ利子ノ高ヲ減ズルコト

六百三十拾圓餘ナリト云フ此額ハ當時ノ英國ノ政府ノ歳入ニ對シテ甚ダ大ナル部分ヲ占ムルモノナリ即チ千七百五十五年ニ於ケル英政府ノ豫算高ハ三千五百六拾六萬圓ニシテ公債利子ノ支拂ニ充ツルモノ千三百八拾萬圓ナルヲ以テ之ヲ借換ノ爲メニ年々支拂フベキ利子ヲ減少シタル六百三十拾萬圓ニ比スレバ其ノ減少額ノ割合ニ巨大ナリシヲ察スルニ餘リアルベシ其後チ第十九世紀ニ至リ屢々借換ヲ行ヒ利子次第ニ減少シテ遂ニ年三朱ノ低利トナレリ而シテ英國ノ富ハ尙ホ次第ニ増加シ工商業ノ發達ト共ニ市場ノ金利愈下落シ年三朱利付ノ公債證書ニテモ已ニ額面以上ノ相場ヲ以テ賣買セラル、ニ至リシカバ有名ナル大藏大臣ゴツシエン氏ハ千八百八十八年ニ國會ニ提議シテ云ハク三分利付ノ公債ヲ償還シ二分四分ノ三ノ利付ヲ以テ新公債ヲ募集シ以テ借換ヲ決行セント此議幸ニ國會ノ

可決スル所ナリ全政府ハ銳意借換ヲ實行シ今ヤ當ニ巨額ノ公債ヲ悉ク借換セシナルベシ果シテ此舉ヲ終ヘシナラバ英政府ハ之ガ爲メニ年々七百三拾九萬圓餘ノ利子減少ヲ見ルニ至ルベシ三分利ヲ變ジニ朱四分ノ三トナシ僅カ一朱ノ四分ノ一ノ下落ニ由リテ斯ノ如ク巨額ノ減少ヲ見ルニ至ル英政府ノ如ク驚クベキ巨額ノ公債ヲ有スル國ニテハ少シノ利子下落ニテモ借換ヲ行ヘバ人民ノ負擔ヲ減少スルコト斯ノ如クソレ大ナリ巨額ノ公債ヲ有スル政府ハ常ニ心ヲ借換ニ用ヒテ可ナリ英政府ノ借換ニ銳意ナルコト斯ノ如シ然ルニ佛政府ノ借換ニ無頓着ナル亦タ驚クベキモノアリ蓋シ佛國政府ハ公債所有者ノ不平ヲ恐レテ斷然借換ヲ決行スルノ勇ナク常ニ因循姑息策ヲ取リタルガ故ナリ英國ハ已ニ業ニ千七百十七年ニ於テ完全ナル借換ヲ舉行シタルコト前述シタル如クナルニ佛國政府ハ

佛國

長ク高利ノ公債ヲ所有シテ徒ラニ國庫ノ負擔ヲ重クシ納稅者ヲ苦シメタリ漸ク千八百二十四年ニ至リ借換ヲ行ハンコトヲ試ミタレドモ其方法宜シキヲ得ズシテ其目的ヲ達スル能ハザリキ甚ダ遺憾ノ事ト云フベシ千八百五十二年ニ於テ初メテ借換ノ其結果ヲ得タリ當時佛國公債ノ利子五朱ナルモノヲ四朱半ノ公債ニ借換ヘタリ但シ四朱半利付ノ新公債ハ發行年ヨリ向フ十ヶ年間ハ再ビ借換ヲ行ハザルベシトノ保證ヲ附シテ之ヲナシタリ此方法甚ダ宜シキヲ得テ舊公債所有者ハ概テ新公債ヲ請求シ現金ヲ請取リタルモノハ其額僅少ナリシト云フ此借換ノ爲メニ年々利子ヲ減少シタルコト三百五拾萬圓餘ナリキ千八百五十二年ヨリ向フ十ヶ年間ハ借換ヲ舉行セザルノ保證ヲ以テ借換ヲナシタルヲ以テ十ヶ年經過ノ後チ即チ千八百六十二年ニ至リ借換ヲ舉行シ得ルノ權ヲ有セシモ當時市場ノ

景況之ヲ許サズ如何トモスルコト能ハザリシガ其後ニ至リ市場ノ金利下落シテ之ヲ行ヒ得ルノ場合ニ運シカドモ當時政府ノ財政ハ甚ダ困難ナリシヲ以テ政府ハ借換ヲ行フニ當リ年々支拂フベキ利子ヲ減少スルノ方策ヲ取ラズシテ資本ヲ得ルニ決セリ其方法ハ千八百六十二年ニ於テ株式取引所ノ相場ニ由レバ全ジ四十五フランクノ利子ヲ年々生スベキ公債ニシテ四分半利付ノ公債ハ三分利付ノ者ヨリ八十フランク低價ナリシヲ以テ四分半利付公債證書所有者ニ三分利付ノ公債證書ヲ交換シ而シテ其差額八十フランクヲ政府ニ納メシメタリ故ニ政府ガ年々支拂フ所ノ利子ノ額ニハ増減ナカリシモ政府ガ之ガ爲メニ毎四十五フランクヲ携フベキ公債ヨリ八十フランク宛ノ資金ヲ得タリサレバ全政府ハ借換ノ爲メニ年々ノ利子ヲ減セズシテ資金ヲ得即チ無利子ノ公債ヲ募集シテ財政ノ急ヲ

救ヒタルモノト云フベキナリ千八百八十三年ニ佛政府ハ巨額ノ公債ヲ借換ヘタリ五分利付ノ公債十三億五千七百余萬圓ヲ四分半利付ノ額債ニ借換ヘ六百七十八萬圓ノ利子ヲ減少スルニ至レリ此借換ハ真正ノ借換ニシテ年々國民ノ負擔ヲ減少シタルコト實ニ大ナリト云フベシ借換ハ斯ル有効有益ナル正當ノ方法ナルニモ拘ハラズ佛政府ハ爾來此事ニ力ヲ用ヒズ高利ノ公債ヲ存シテ國民ノ負擔ヲ重クスソレ何ノ謂ヒタルヲ解スベカヲザルモノアリ千八百七十年普佛戰爭ノ時ニ募集シタル五分利附ノ公債尙ホ依然トシテ借換ヲ行ハズ市場ノ金利ハ已ニ低下スルヲ願ミズ徒ラニ公債ニ高利ヲ支拂フハ公債所有者ノ利益ヲ計リテ國家全体ノ利益ヲ願ミザルモノナリ國民全体ノ利益ヲ割ギテ一部少數ノ人ニ與フ豈ニ公平ナリト云フヲ得ンヤ然ルニ或ル政治家ハ公債所有者ナル一部人民ノ歎心ヲ買

セバ毫モ躊躇スル所ナク斷然決行セラレンコトヲ當路者ニ望ムノミ

第九章 國債償還

公債償還

公債ハ國庫ノ負擔ヲ増シ人民ノ納稅額ヲ増加スルモノナリ之ヲ減少スルハ國庫ノ負擔ヲ減シ人民納稅ノ義務ヲ輕フスルモノナリ而シテ之ヲ減少スル方法ハ三アリ借換及ビ償還之レナリ借換ハ政府ガ年々支拂フ所ノ利子ヲ減少シ償還ハ公債ノ元金ヲ償却シテ全ク政府ノ義務ヲ免ズルモノナリ然レモ償還ハ之ヲ借換ニ比スレバ至リテ困難ナリサレバトテ之ヲ償還セザレバ未來永劫政府ノ義務ヲ解除スルノ期ナク已ニ巨額ノ公債存在スレバ一朝事アルルニ臨ミテ新ニ公債ヲ起シ以テ一時ノ

急ニ應ズル能ハズ加之公債ハ年々政府ノ負擔ヲ重クスルモノナル故ニ或人ハ公債ハ國家ヲ亡スモノナリト云ヒテ甚ダ之ヲ嫌忌スルモノ多シ故ニ古來公債償還ニ付キ議論多キヲ以テ左ニ之ヲ詳述セン

第一節 公債ハ償還ヲ要スルモノナリヤ否ヤ

北米合衆國ハ一般ニ公債ヲ嫌忌シ常ニ之ヲ償還スルコトニ勉メ英國及ビ和蘭國亦タ幾分カ其輩ニ倣フト雖モ羅甸人種并ニ東方ノ開化國ハ公債償還ニ重キヲ置カザルモノ、如シ此兩政策中ノ何レヲ以テ財政ノ正道ニ合ヘリトナスヤ否ヤ

公債償還ノ緩急

此兩政策ハ共ニ公債償還ヲ非ナリトスルモノニアラズ只其之ヲナスノ緩急順序ニ由リテ異ナレルノミ一ハ之ヲ急ニスベシト云ヒ一ハ之ヲ緩ニスベシト云フノ點ニ於テ異ナレルノミ一ハ公債ノ元金ヲ全ク償還シテ以テ國民ノ負擔ヲ減センコトヲ

主張シ一ハ公債ノ元金ヲ償還セントスレバ一時國民ノ租稅ヲ増ササルベカラズ之ヲ増加シテ工商業ノ發達ヲ害センヨリ寧ロ之ヲ後世ニ讓ルベシ後世ノ民ハ今日ノ民ヨリ多クノ財ヲ有スベキガ故ニ之ヲ償還スルニ容易ナリト云フニアリ今尙ホ償還ノ事ヲ後世ニ讓ルベシト主張スル論者ノ主旨ヲ解析センニ二個ノ理由ニ基ケルモノ、如シ第一ノ理由ハ金銀ハ毎年増加セラレ信用ノ制度愈々整頓スルニ從ヒ通貨ノ相場下落スル故ニ全シク百圓ヲ負擔スト云フモ今日百圓ヲ負擔スルヨリ后日百圓ヲ負擔スルハ遙ニ輕少ナリトスサレバ公債ヲ償還セズノ之ヲ放擲シ置クモ今世人民ハ之ガ爲メニ受クル負擔ヨリモ后世人ノ受クルハ遙ニ輕少ナリトス故ニ今日殊更ニ公債ヲ償還スルノ必要ナシト云フニアリ 第二ノ理由ハ一國ノ富資繁榮ハ次第ニ増加スルモノナル故ニ今日受クル處ノ同額ノ負擔モ

后日ニ至レバ遙ニ輕易ニ至ルモノナリ是ヲ以テ今日急ニ租稅ヲ起シテ公債ヲ償還スルノ必要ナシ之ヲ放擲シ置クモ后日ニ至ラバ償還シタルト全一ノ結果ヲ生ズト云フニアリ英國ノ實例ヲ引用シ來リテ曰ク英國ハ公債費ノ爲メニ千八百十五年ニハ歳入百分ノ九ヲ支出シ千八百八十年ニ僅ニ百分ノ三ヲ支出シタルノミ斯ノ如ク一大減少即チ僅ニ三分ノ一ニ減少シタル所以ノモノハ全國ノ富資次第ニ増加シテ全國政府ノ歳入ヲ増加シタルニ基因スルモノニシテ決シテ公債ノ元金ヲ償還シタルモノニアラザルナリ尙ホ佛國ノ實例ヲ引證シテ曰ク千八百四十年全國政府ノ公債ハ八億五千萬弗ニノ千八百七十年ニハ二十七億五千萬弗ナリシガ之ガ爲メニ支出スル費用ヲ全國政府ノ歳入ニ比スレバ千八百四十年ニハ千分ノ二十二ニシテ千八百七十年ニハ千分ノ二十三ナリシト云フ斯クノ如ク公債額

増加シタルモ其費用ヲ歳入ニ比スレバ其差僅ニ千分ノ一アル
 ノミ其然ル所以ノモノハ佛國ノ富財次第ニ増シ全政府ノ歳入
 増加シタルガ爲ナリ若シ全政府ニシテ公債ヲ増加セザリシナ
 ラバ假令ヒ少シモ元金ヲ償還セザリシニヒヨ其負擔ハ歳入ニ
 比シテ大ニ減少シタリシヤ疑ヒナシサレバ勉メテ急ニ公債ヲ
 償還スルノ必要ナシト云フニアリ全一ノ公債ヨリ生スル負擔
 ニシテ之ヲ感スルコト后世ノ民ハ今世ノ民ヨリ輕シト云ヘル
 ノ理ハ英佛ノ實例ニ照シ世界各國ノ形勢ニ問ヒ之ヲ理論ニ徵
 スルモ一點ノ疑ヒナシ然リト雖モ若シ今日ニ於テ一國工商業
 ノ發達ヲ害セズ國民納稅ノ義務ヲ苛重ナラシムルコトナクシ
 テ公債ヲ償還スルヲ得バ何人モ之ヲ償還スルニ於テ若情ヲ唱
 フルモノナカルベシ償還ヲ后世ニ延バスベシト云ヘル論者ト
 雖モ決シテ償還其者ヲ排斥スルニアラズ只償還ヲ急ニスルト

苛税ヲ課シテ
 公債ヲ償還ス
 ベカラズ

キハ却リテ害毒ヲ生スル故ニ之ヲ延バスベシト云フニアルノ
 ミ公債ノ償還セザルベカラザルヤ日ヲ視ルヨリモ明カナリ故
 ニ償還ヲナシ得ルノ機會アラバ速ニ之ヲ決行スベシ國民富資
 ノ發達ヲ口實トシテ負擔ヲ后世ニ殘スハ決シテ策ノ得タルモ
 ノニアラザルナリ

第二節 如何ナル速力ヲ以テ公債ヲ償還スベキカ

公債ヲ募集スルノ場合ヲ論ジタル部ニ已ニ説明シタル如ク一
 國ノ經費ヲ支辨スルニ是非トモ苛重ノ租稅ヲ課セサル可ラザ
 ルノ時ニ當リ初メテ公債ヲ募集スベシ語ヲ換ヘテ之ヲ言ハバ
 苛重ナル租稅ヲ免ル、爲メニ公債ヲ募集スルモノナリ故ニ公
 債ヲ償還スルニ當リテ苛重ナル租稅ヲ徵集シテ之ヲナスベカ
 ラザルナリ且ツ又苛重ナル租稅ノ存在スル間ハ決シテ公債ヲ
 償還スルノ必要ナシ此ニ條件ヲ以テ公債償還ニ關スル原則ト

ス此原則ハ甚ダ簡易明白ナルガ如シト雖モ退テ之ヲ實地ニ應用セントスルニ當リテハ一大困難ヲ生ズ即チ苛重ナル租税トハ何ゾヤト云ヘル問題之レナリ何レノ點ヨリ以上ヲ以テ苛重ナル租税ト云フベキヤハ甚ダ困難ナル問題ニシテ之ヲ定ムルコト甚ダ容易ナラズト雖モ予輩ヲ以テ之ヲ見レバ工業ノ精神ヲ痲痺セシムル如キハ之ヲ苛重ナリト云ハザルヲ得ズ而シテ其精神ヲ痲痺セシムルモノハ高税ノ爲メニ工業家其利純ヲ失フノ點ニアリ何人ニテモ其業ニ從事スルモノハ利純ヲ得ラル、ガ故ナリ而ルニ高税ヲ課シテ少シニテモ其利純ヲ減スルハ即チ工業家ノ精神ヲ情弱ナラシムルモノナリ一國富強ノ源泉タル工業ヲ痲痺衰退セシメテ而シテ公債ヲ償還スルハ決シテ策ノ得タルモノニアラザルナリ

第三節 各國ノ歴史

各國公債償還ノ歴史

英國

英國 西曆紀元千八百二十年ヨリ以前ニアリテハ專ラ公債償還ニ力ヲ用ヒタルモノ、如ク熱心ニ之ヲ實行セリ其甚シキニ至リテハ一方ニハ公債ヲ償還シナガラ一方ニハ歳入不足ヲ補フカ爲メニ新タニ公債ヲ起セリ其狀恰モ右手ニテ舊債ヲ返却シ左手ニ新債ヲ請取ルガ如シ甚ダ奇ナリト謂フベシ然レドモ一千八百十年ヨリ后ハ力ヲ償還ニ用ヒザリシ即チ千八百十五年ニ英國ノ公債四拾三億五百九拾萬五千貳百餘圓ニシテ千八百七十七年ニハ三拾八億七千九百三拾六萬八千餘圓トナレリ其間六十二年ヲ經テ其高ヲ減ズルコト四億貳千六百五拾八萬七千貳百圓ナリ之ヲ六十二年ニ配當スレバ平均各一ケ年減少高ハ僅ニ六百八拾八萬圓ニ過ギズ之ヲ英國當時ノ歳入三億五千萬圓ニ比較セバ甚ダ少額ナリト謂ハザルヲ得ズ此時期ハ全政府ガ公債償還ニ力ヲ用ヒザリシ時期ナリ然レドモ之レヨ

リ後ハ亦タカチ公債償還ニ用ヒタリト云フベキカ今其統計ヲ
 舉ゲンニ千八百七十年ヨリ全八十五年ニ至ルノ十五ケ年間ニ
 於テ貳億七千萬圓即チ毎一年平均壹千八百萬圓宛ノ元金ヲ償
 却シ且ツ借換ヲ用ヒテ年々支拂フ所ノ利子ヲ大ニ減少セリ即
 チ千八百十五年ニ於テ支拂フ所ノ利子ハ壹億六千三百貳拾貳
 萬圓餘ヲ要セシカドモ千八百八十五年ニハ壹億貳千九百三拾
 七萬圓餘ニ減少シ其差三千三百八拾四萬圓ハ全ク借換ヲ行ヒ
 タル爲メニ利子ノ負擔ヲ輕減セリ且ツ又有名ナル大藏大臣ゴ
 ッシエン氏ハ千八百八十八年ニ三分利付公債ヲ二分半利付ノ
 公債ニ借換ントノ議ヲ呈出シ政府ハ之ヲ行フコトニ決シタレ
 バ今日ニ於テ未ダ全ク借換ヲ終ヘズト雖モ之ヲ終フルニ至ラ
 バ大ニ公債ノ費用ヲ減少スベシ其詳ナルハ借換ノ部ヲ見ヨ以
 上述ベタル處ヲ約言スレバ英國政府ハ千八百十五年ヨリ全七

佛國

十年ニ至ルノ一時期ニ於テハ公債減却ニ力ヲ用ヒザリシガ如
 シト雖モ其他ハ總テ公債減少ニ盡力シタルモノナリト云ハザ
 ルベカラズ

佛國ハ英國ノ如ク最初ハ減債基金ヲ設ケテ公債減少ニ盡力セ
 シカドモ革命騷擾其他事故ノ爲メニ國用不足シ公債ヲ募集セ
 シカバ恰モ右手ニ公債ヲ償還シ左手ニ公債ヲ募集シタルガ如
 キノ狀況アリ后チ基金ノ方法ヲ廢シ且ツ國家多事ノ日多ク公
 債ヲ募集シタルコト數次ニシテ減債ヲ力メザリシカバ今日ニ
 於テハ五十二億圓ノ公債ヲ有ス其巨額驚クニ餘リアリ佛國政
 府今日ニシテ之ガ償還ノ途ヲ設ケザレバ國家ノ信用ヲ損スル
 コト大ナルノミナラズ一旦有事ノ日ニハ大ニ國債ヲ起スチ得
 ズシテ不都合ヲ感ズベキナリ

米國

米國ハ最モ減債ニ熱心シ其急激ナルコト驚クニ餘リアリ元來

同國ノ公債ハ重モ二千八百六十五年ノ南北戰爭ニ由リテ超リタルモノナリ全年ニ於ケル國債ノ總計三十億圓而シテ僅々十三年ヲ經過シタル千八百七十八年ニ於テハ已ニ減ジテ二十億圓トナレリ故ニ十三年間ニテ減少シタル總額十億圓ニシテ毎年平均七千七百萬圓ナリトス千八百八十八年ニハ已ニ減少シテ僅々十億八百萬圓トナレリ故ニ千八百七十八年ヨリ千八百八十八年ニ至ルノ十ヶ年間ニ於テ殆ンド十億圓ヲ減少シ毎一年平均凡ソ九千萬圓ヲ減少セリ以上ノ如ク急激ノ進歩ヲ以テ公債ノ元金ヲ償還シタルノミナラズ又一方ニハ大ニ借換ヲ行ヒテ利子ヲ減少シタルコト大ナリ其詳ナルハ借換ノ部ヲ見ヨ全國ノ財政甚ダ裕カナルガ故ニ斯ノ如ク速ニ公債ヲ償還シ得ルニ相違ナシト雖モ亦ターニハ全國ノ輿論大ニ國債ヲ擯斥シ減債ヲ獎勵スルノ力預リテ大ニ効アリト爾ハザルヲ得ズ

第十章 各國公債ノ比較并ニ人民負擔ノ輕重

文明諸國ノ公債近世ニ至リテ非常ノ増加ヲナシタルコトハ已ニ第一章ニ於テ陳述セリ本章ニ於テ其増加ノ次第ヲ述ベ次ニ各國人民負擔ノ輕重ヲ比較説明セントス本章ハ重ニ法學博士田尻稻治郎氏ノ國債論ニ據ル

パキスタ氏ノ調査ニ據レバ西曆千七百十五年ニ於テ諸國ノ公債ハ總計十五億圓ニシテ之ヲ細別スレバ佛國六億二千萬圓、和蘭四億五千萬圓、英國千八百萬圓、西班牙、伊太利其他ノ諸國ヲ併セテ二億五千萬圓ナリキ而ルニ西曆千七百九十三年ニ至ル諸國ノ公債總計凡ソ二十五億三千萬圓ニ増加セリ即チ八十年間ニ於テ諸國ノ公債總高七割ヲ増加セリ之ヲ細別スレバ英國十四億圓、和蘭五億圓、佛蘭西一億六千萬圓ニシテ其他ハ澳太利、西班牙、合衆國トス千八百四十八年ニハ諸國公債總計八十六億圓

トナリ千八百七十年ニハ二百億圓ニ増加シ千八百八十七年ニハ總計三百七億九千二百萬圓ノ巨額ニ達セリ今其細別ヲ舉示センニ

- 英國 三、六八一、三九三、四四〇^億
 - 佛國 六、四〇〇、〇〇〇、〇〇〇、
 - 外ニ地方債八〇〇、〇〇〇、〇〇〇、
 - 露國 三、六〇五、六〇〇、〇〇〇、
 - 伊太利 二、二二六、二〇〇、〇〇〇、
 - 奧地利匈牙利二、六一〇、六〇〇、〇〇〇、
 - 西班牙 一、三〇〇、〇〇〇、〇〇〇、
 - 普漏西 一、〇四五、四七八、二五〇、
- 其他ノ諸國ヲ合算シテ歐洲ノ公債總計ハ二百四十一億二千七百萬圓余ナリ

- 合衆國 一、六七五、八一六、六六〇
- 外ニ地方債 一、一〇〇、〇〇〇、〇〇〇
- 加奈多 二七三、一六四、三四一
- 墨西哥 二一〇、三九四、二八八
- ブラジル 三八二、四三六、六四〇
- 亞米利加洲總計四十億六千六百萬圓余ナリ
- 日本 二四一、四九一、二四五
- 英領印度 八七二、六二〇、五〇五
- 錫蘭 一一、三一三、八九五
- 香港 一、〇〇〇、〇〇〇
- 亞細亞洲總計十一億三千萬圓余ナリ
- 濠洲諸國總計七億八千四百三十五萬圓余ナリ
- 亞弗利加洲諸國總計六億八千八百萬圓余ナリ

以上陳述シタル所ハ各國ガ負フ所ノ公債元金ノ高キ比較シタルモノナリ今一步ヲ進メテ公債ノ負ノ負擔ハ決シテ其元金ノミヲ以テ論スベカラサル所以ヲ明ニセンバキスタ氏ノ調査ニ據レバ千八百七十年以前ニ於テハ佛米兩國ノ公債ハ元金ニ於テハ殆ンド全額ナリ即チ佛國ハ廿六億七千萬圓米國ハ二十六億六千二百萬圓ナリ故ニ元金ノミヲ以テ論スレバ當時佛國公債ノ負擔ハ米國ヨリ少シク重キガ如シト雖モ之ヲ實際ニ買スニ米國人民ハ其公債ノ爲メニ佛國人民ヨリモ殆ント二倍ノ費用ヲ要スルモノナリ何トナレバ當時米國ノ公債ハ殆ンド悉ク六分利付ナリシモ佛國公債ノ四分ノ三八三分利付ニシテ其他ハ四分若シクハ四分半利付ナレバナリ世人往々一國ノ公債ヲ論ジ只其元金ニ於テ變化ナキヲ見テ忽チ何年度ト何年度ニ於テハ差異ナシト論ズルモノアリ若シ此事ヲシテ其元金ノ高ノ

佛國

ミナ意味セシメバ敢テ妨ナシト雖モ其負擔ノ輕重ヲ意味スルモノトセハ是レ大誤ノ甚シキモノト云フベシ一國大ニ借換ヲ施行シ其元金ハ則チ全一ナリト雖モ其利子ハ大ニ減少シ負擔爲メニ減少スルコトアレバナリ

左ニ千八百八十七年ニ於ケル諸國公債利子其他ノ費用高キ示サン

歐洲

| | |
|--------|---------------|
| 佛國 | 二六、七、四五三、一三六 |
| 露國 | 二二、二、八七三、三五五 |
| 英吉利 | 一三、九、七九〇、一一五 |
| 奧地利匈牙利 | 一、二、六、四二〇、五一二 |
| 伊太利 | 一、一、七、七九三、三〇二 |
| 普漏西 | 四、九、三、四三、二一一 |

米洲

合衆國

九一、三一七、七八五

ブラジル

三五、九五四、〇七八

亞細亞

英領印度

三〇、〇六〇、〇〇〇

日本

一六、三八九、九八九

以上陳述シタル所ニ由リ公債ノ爲メニ各國人民ガ年々負擔人
ル費用ノ多寡ヲ知ルヲ得ベシ然レドモ元金ノ多少モ亦大ニ
關係スルモノナリ譬ヘバ茲ニ二國アリ共ニ公債ノ爲メニ六千
萬圓ノ利子ヲ拂フヲ要スベシ甲國ノ公債ハ五分利付ニシテ乙
國ノ者ハ三分利付ナリ然ラバ此兩國ハ當時ニ於テハ其公債ノ
爲メニ同額ノ負擔ヲ有スト雖モ元金償還ニ至リテハ大ニ其困
難ノ度ヲ異ニス即チ其五分利付ヲ以テ公債ヲ起セシモノハ元

公債利子ト之
ヲ負擔スルハ
口ノ比較

金少キハ無論ノトニシテ其消却ニ於テハ固ヨリ三分利付ノモ
ノヨリ容易ナリ加フルニ五分利付ノ者ハ後年ニ至リ借換ヲナ
スヲ容易ニシテ利子ト雖モ大ニ之ヲ減少スルヲ得ベシ由是
觀之公債元金ノ多少ハ決シテ之ヲ輕視スベキニアラズ以上論
スル所ヲ以テ之ヲ見ルニ現在一國ガ其公債ノ爲メニ負擔スル
所ヲ見ント欲セバ其利子ヲ以テ之ヲ論ゼザル得ズ若シ其償還
ノ難易ヲ見ント欲セバ其元高ヲ見ザル得ズ此二者ハ共ニ輕視
スベキニアラズ
右ニ陳述スルニ方法ハ共ニ公債ヨリ生スル負擔ノ輕重ヲ窺フ
ニ足ルヘシト雖モ只其一班ヲ見ルモノニシテ未ダ以テ全局ヲ
窺フニ足ラザルナリ故ニ公債ノ利子ヲ人口ト比較シテ每一人
ノ負擔ヲ示サンバスキタ氏ノ調査ニ由レバ

每人額利子負擔

- 第一 濠洲 五五三
- 第二 佛蘭西 六、九四
- 第三 英國 三、九六
- 第四 合衆國 一、八二
- 第五 伊太利 三、九三
- 第六 和蘭 三、一七
- 第七 埃及 四、二四
- 第八 普國 一、七四
- 第九 日本 〇、四二

右ノ如ク利子ノ高チ人口ニ比例スルノ方法ハ只タ公債ノ元金或ハ元利ヲ列記スルノ方法ヨリ其負擔ノ景况ヲ瞭然ナラシムルノ便アリト雖モ未タ以テ十分ナリト云フコト能ハズ其ノ實際ノ負擔ヲ知ラント欲セバ人民ノ貧富及ビ公債ニ由リテ起シタ

公債ノ負擔ト
人民收入ノ比
較

ル事業ノ結果ヲ參酌シテ考究セザルベカラズ埃及ノ如キハ一人前ノ負擔額ハ佛國人ヨリ少ナシト雖モ其負擔ハ決シテ輕シト云フベカラズ而シテ濠洲人民ノ負擔ハ其額大ニシテ重キガ如シト雖モ該國ノ公債利子ハ官有地拂下貸下料及ビ公債ヲ以テ起セシ事業ノ收入ヨリ之ヲ償ヒテ尙ホ餘リアルモノナレバ其負擔決シテ重キニアラズ濠洲人民ハ公債利子ノ爲メニ負擔ヲ有セズト云フモ強ヒテ過言ニアラズ何トナレバ彼等ハ之ガ爲メニ租稅ヲ拂フヲ要セズ公債ヲ以テ起セシ事業ノ收入ヲ以テ其負擔ヲ辨償スルコトヲ得レバナリ

又人民ノ歳入ニ比較スルノ方法アリ歳入ヲ知ルハ難キガ故ニ想像ヲ入レザルヲ得ズ故ニ統計ノ術進歩スルマデハ到底此方法ニ由ルヲ得ズ

茲ニ又公債負擔ノ輕重ヲ計ルノ一方法アリ即チ公債利子ト政

府歳入ノ高トテ比較スルコト之レナリ政府ノ費用中公債費支拂ニ屬スルモノ多カラザレバ政府之ヲ支拂フコト容易ニシテ元金ノ償還モ亦從ヒテ容易ナルベシ然レドモ總費用中利子支拂ノ分已ニ巨額ニ達スレバ常ニ他ノ經費ニ於テ剩餘アルヲ得ズ租額モ從ヒテ高カラザルヲ得ザレバ一朝事アルニ際シ大ニ支拂ニ苦シムベシ昔墨西哥ノ景況ト西班牙及ビ土耳其ノ景況トハ此兩極端ヲ示スモノナリ

| 年 | 國 | 歳入 | 公債利子 | 例比 |
|---------|------|--------------|----------|----------|
| 千八百七十五年 | 普國 | 一億七千四百四十五萬圓 | 千二百三十四萬圓 | 七分 |
| | 土耳其 | 一億萬圓 | 七千萬圓 | 七割 |
| | 西班牙 | 一億萬圓ヨリ一億二千萬圓 | 七八千萬圓 | 六割五分ヨリ七割 |
| | 英國 | 三億九千萬圓 | 一億四千萬圓 | 三割六分 |
| 千八百七十七年 | 英國 | 三億九千萬圓 | 一億四千萬圓 | 三割六分 |
| | 佛國 | 五億五千八百萬圓 | 二億四千萬圓 | 四割三分 |
| 全 | 七十八年 | | | |

全 八十七年 日本 七千九百九十三萬圓 千六百二十八萬圓 二割

以上論スル所ノ者ヲ以テ之ヲ見レバ國ノ貧富公債ノ種類等種々ノ事件ニ由リ大ニ景況ヲ異ニスト雖モ公債ニ係ル費用政府歳入ノ三割五分位ニ至ルマテハ其負擔非常ニ重シト云フヲ得ス四割五分ニ至レバ殆ンド其極度ニ達シ五割五分若クハ六割ニ至レバ非常ノ負擔ニシテ一朝事アレバ大ニ困難ナルベシ尙ホ一言スベキハ公債ノ負擔額ニ變動ナキニ於テハ一方ニ於テ富ノ發達ニ由リ大ニ其負擔ヲ減少スベキ故ニ急激ニ公債償還ニ力ヲ用フルヨリハ一國ノ富源ヲ開發増加スルニ如カザルナリ

第十一章 本邦國債始末

日本ノ國債史

本邦國債ノ總計二億四千八百四十六萬七千九百六十圓(明治二十二年五月一日ノ調査ニ據ル)ノ巨額ニ達セリ今其起源ヲ尋ルニ明治二年初メテ外國舊公債ヲ起シテヨリ爾來十數圓ニ於テ之ヲ募集シタルモノニシテ其原因許多アリト雖モ概テ華士族ニ交付シタルモノノ新事業ヲ起ス爲メニ支出シタルモノナリ戰爭費ニ支出シタルハ西南戰爭ノ時ニ當リ第十五國立銀行ヨリ借入レタル征討費借入金ノ一アルノミ歐米諸國ノ公債ハ概テ戰爭ニ源因シ我國ノ公債ハ政體ノ變遷新事業ノ興起ニ源因スルモノ多シ彼我公債ノ源因ニ一大差アルヲ知ルベキナリ其源因ハ何レニアルニモセヨ一國ノ公債タル以上ハ國家ハ之ヲ償還スルノ義務ヲ有シ未ダ償還ヲ終ヘザル間ハ其利子ヲ支拂ノ義務ヲ有ス而シテ本邦年々支拂フ所ノ利子金千六百三十八萬

圓ニシテ我國歲入ノ二割ヲ占ム明治二十年ノ統計ニ據ルニ一國ノ財政ヲ調理整頓セントスルモノ豈ニ意ヲ國債ニ注ガズ可ナランヤ因テ左ニ本邦諸公債ノ要目概況償還ノ摸樣并ニ諸公債ノ起源沿革ヲ畧叙(大藏大臣ヨリ總理大臣ニ提出シタル國債始末書ニ據ル)シ以テ本邦國債領末ノ概況ヲ明ニセント欲ス

諸公債要目

| 名稱 | 科目 | 條例發布及約定年月 | 利子歩合 | 利子支拂期 | 元金償還末年 |
|-------|-----------|-----------|------|-----------------|--------|
| 外國舊公債 | 明治三年四月廿三日 | 九步 | 二月一日 | 明治十五年八月 | |
| 外國新公債 | 六年一月十三日 | 七步 | 七月一日 | 全三十年 | |
| 舊公債 | 六年三月廿五日 | 〇 | 十二月 | 同五十四年迄 五十七年迄 | |
| 新公債 | 六年三月廿五日 | 四分 | 六月 | 全二十九年 | |
| 金換公債 | 六年三月三十日 | 六分 | 五月 | 全三十年 | |
| 引換公債 | 七年三月廿八日 | 八分 | 十一月 | 全十七年 | |

| | | | | | | |
|----------|---|-----------|------|----|----|-------|
| 金祿公債 | 全 | 九年八月五日 | 五分六分 | 十五 | 一月 | 全三十九年 |
| 舊神官配當祿公債 | 全 | 十年三月十三日 | 八分 | 十一 | 一月 | 全十九年 |
| 征討費借入金 | 全 | 十年五月廿二日 | 七分五厘 | 十五 | 一月 | 全三十年 |
| 起業公債 | 全 | 十一年五月一日 | 六分 | 十六 | 一月 | 全三十五年 |
| 金札引換無名公債 | 全 | 十六年十二月廿八日 | 六分 | 十五 | 一月 | 全五十三年 |
| 中山道鐵道公債 | 全 | 十六年十二月廿八日 | 七分 | 十六 | 一月 | 全四十七年 |
| 海軍公債 | 全 | 十九年六月十二日 | 五分 | 十五 | 一月 | 全十五年 |
| 整理公債 | 全 | 十九年十月十六日 | 五分 | 十六 | 一月 | 全七十六年 |
| 鐵道費補充公債 | 全 | 二十二年一月廿八日 | 五分 | 十六 | 一月 | 全七十六年 |

諸公債償還ノ概況

| 名稱 | 科目 | 證書發行及借入高債 | 還 | 高未償還高 |
|-------|----|-----------|-----------|-----------|
| 外國舊公債 | | 四、八八〇、〇〇〇 | 四、八八〇、〇〇〇 | 〇 |
| 外國新公債 | | 一、七二二、〇〇〇 | 五、八八五、七六六 | 五、八二六、二三二 |

| | | | |
|----------|-------------|------------|------------|
| 舊公債 | 一〇、九七二、七二五 | 三七三〇、七二六 | 七、二四一、九九八 |
| 新公債 | 一一、四一八、一七五 | 一、八六六、九〇〇 | 一〇、五五一、二七五 |
| 金札引換公債 | 六、六六九、二五〇 | 二、六七六、六五〇 | 三、九九二、六〇〇 |
| 秩祿公債 | 一六、五六五、八〇〇 | 一六、五六五、八〇〇 | 〇 |
| 金祿公債 | 一七三、八六一、五七五 | 八三、五九七、〇七〇 | 九〇、二六四、五〇五 |
| 舊神官配當祿公債 | 三三四、〇五〇 | 三三四、〇五〇 | 〇 |
| 征討費借入金 | 一五〇〇、〇〇〇 | 五〇〇〇、〇〇〇 | 一〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 起業公債 | 一一、五〇〇、〇〇〇 | 一、七八九、八〇〇 | 一〇、七一一、二〇〇 |
| 金札引換無名公債 | 七、九二九、九〇〇 | 一〇、〇〇〇 | 七、九一九、九〇〇 |
| 中山道鐵道公債 | 二〇、〇〇〇、〇〇〇 | 一〇、〇〇〇 | 一九、九九〇、〇〇〇 |
| 海軍公債 | 一三、〇〇〇、〇〇〇 | 〇 | 一三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 整理公債 | 六六、九七一、二五〇 | 〇 | 六六、九七一、二五〇 |
| 鐵道費補充公債 | 二〇、〇〇〇、〇〇〇 | 〇 | 二〇、〇〇〇、〇〇〇 |

| 合計 | | 三七四、八一四、七二五 | 一二六、三四六、七六四 | 二四八、四六七、九六〇 |
|---------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 備考 本表未償還額ハ二十二年五月一日ノ調査ニ據ル | | | | |
| 自明治三年至全二十二年 毎年六月末日國債未償還高表 | | | | |
| 年次 | 金額 | | | |
| 明治三年 | 四、八八〇、〇〇〇 | | | |
| 同四年 | 四、八八〇、〇〇〇 | | | |
| 同五年 | 四、八八〇、〇〇〇 | | | |
| 同六年 | 二二、七九二、五〇〇 | | | |
| 同七年 | 三七、五七四、〇五〇 | | | |
| 同八年 | 四七、七八五、五三二 | | | |
| 同九年 | 五四、八七〇、二八六 | | | |
| 同十年 | 五三、〇二九、一〇六 | | | |
| 同十一年 | 二四一、三九九、八二二 | | | |

| | |
|-------|-------------|
| 同十二年 | 二三六、九七八、二〇八 |
| 同十三年 | 二四九、二六五、八八七 |
| 同十四年 | 二四六、三六一、〇二八 |
| 同十五年 | 二四四、一三五、五〇三 |
| 同十六年 | 二三七、〇七六、三六九 |
| 同十七年 | 二三三、一五八、一五三 |
| 同十八年 | 二三九、〇八一、六二六 |
| 同十九年 | 二三八、四三四、五〇四 |
| 同二十年 | 二四二、四四〇、三九六 |
| 同二十一年 | 二四五、四三八、八四四 |
| 同二十二年 | 二四八、四六七、九六〇 |

備考 本表明治三年ハ八月一日末日ノ高明治二十二年五月一日ノ高ヲ掲記シタルモノナリ

各公債ノ目的
新舊公債

各公債ノ目的并ニ其始末

第一新舊公債 維新前封建制度ノ盛ナルニ當リ諸藩ノ數二百七十有七各藩ノ財政整頓セズ概テ藩債ヲ起シ之ヲ治下富豪ノ農商ニ徵シ又ハ他管ノ人民ニ借リ米穀ノ借アリ金錢ノ借アリ種々ノ名稱ヲ附シテ各藩ニ負債ヲ有セリ而シテ藩籍奉還ノ舉アリテ大政一ニ歸シ維新ノ大業成ルニ及ビ是等藩債ヲ整頓セサルヲ得ズ是ニ於テ明治六年三月第十五號太政官達ヲ以テ新舊公債發行條例ヲ發布シ舊藩債ヲ改テ政府ノ公債トシ弘化元年ヨリ慶應三年ノ藩債ヲ舊公債トシ明治元年以後四年七月廢藩マテノ藩債ヲ政府公債トナセリ新公債證書ノ元金ハ發行ノ年即チ明治五年ヨリ三ヶ年据置四ヶ年目ヨリ向フ二十二年ヲ限リ毎年又ハ隔年ニ抽籤ノ法ヲ以テ償還スルモノナリ而シテ利子ハ年四分ニシテ毎年六月十二月ニ支拂フモノナリ舊公債證

金祿公債

書八年賦證券ニシテ其元金ハ證券發行ノ年即明治五年ヨリ五十ヶ年即明治五十四年マデニ割賦シテ毎年十二月ニ支拂フモノナリ

第二秩祿公債 秩祿公債證券發行ノ目的ハ華士族農工商營業ノ自由ヲ許可シ彼等ヲシテ力食ノ途ニ就カシメンガ爲メ家祿奉還ヲ許シテ其資金ヲ供給スルニアリ永世祿ハ六ヶ年終身祿ハ四ヶ年分ヲ合計シ其高ノ半ハ公債證書半ハ現金ニテ之ヲ交付セリ明治七年八年ニ家祿奉還ヲ出願セシモノ頗ル多ク其人員十三萬五千餘人交付ノ公債證書ハ一千六百五十六萬五千餘圓現金交付ノ高千九百三十二萬六千餘圓ナリ(右現金支拂高ノ内壹千七百七十壹萬貳千圓ハ明治六年英國倫敦ニテ募集セシ外國新公債ノ資金ヲ以テ之ヲ支拂ヒ其他七百六十一萬四千八百餘圓ハ他ノ收入ヲ以テ之ニ充テタリ)

秩祿公債

第三 金祿公債 金祿公債證書ハ從來華士族及平民ニ給與シ家祿賞典祿ノ支給高ヲ公債證書ニ換ヘ一時ニ下附シタル者ニシテ我國公債中最モ巨額ノモノナリ明治二十二年四月末日マテニ實際證書ノ發行高ハ壹億七千三百八十六萬千餘圓端數現金ヲ交付シタル高ハ七十三萬四千八百圓餘ナリト云フ

舊神官配當祿公債

第四 舊神官配當祿公債 此公債ハ維新後神職ヲ離レタル舊神官ニ下賜セラレタルモノナリ

七分利附外國新公債

第五 七分利付外國新公債 此公債ハ華士族中秩祿ヲ奉還スルモノニ現金ヲ給シ併テ諸般ノ有益事業ノ費途ニ供スル目的ヲ以テ募集シタルモノナリ而シテ其元利金ハ秩祿ノ奉還ニ由リ歳出ヲ減シ得ル處ノ金額ヲ以テ之ヲ支拂フモノトセリ此公債ノ募集ハ英京倫敦ニテ公衆ヨリ募集シタルモノナリ我國ノ信用未ダ廣カラス種々ノ風説アリシニモ拘ハラズ應募額總計英貨

征討費借入金

九百五十萬磅ニ達シ需用高ニ超過スルコト七百十萬磅ニ達セルノ好景ヲ呈セリト云フ

會社引換公債

第六 征討費借入金 此金ハ明治十年西南戰擾ノ費ニ充ンガ爲メ第十五國立銀行ヨリ年五分利ヲ以テ借入レタルモノナリ

國庫記名公債

第七 金札引換公債 此公債ハ明治六年ニ於テ元年維新ノ際發行セシ所ノ太政官札民部省札及維新後ニ發行セシ所ノ新國札引換ノ爲メ發布セラレタルモノナリ此公債ヲ以テ引換ヘタル紙幣ハ之ヲ銷却セリ其高六百六十六萬九千圓餘ナリ

九分利附外國新公債

第八 金札引換無記名公債證書 此公債ハ政府發行ノ紙幣ヲ減少シ其價格ヲ回復スルノ目的ヲ以テ發布シタル者ナリ已ニシテ紙幣ノ價格漸ク回復シ明治十九年一月ヨリハ全ク銀貨下紙幣トノ間ニ差ナキニ至リシカバ此公債發行ノ事ヲ停止セリ

第九 九分利付外國舊公債 此公債ハ內國運送ノ便ヲ開キ物産

ナ興シ一般經濟ノ發達ヲ計ルノ目的ヲ以テ明治二年英京倫敦ニテ募集シタルモノナリ是レ外國ニ於テ公債募集ノ嚆矢トス此公債ノ償還ハ日本帝國海關稅及ビ鐵道利益ヲ以テ之ニ充テ利子ハ年九分證書ノ發行額ハ英貨百萬磅トシ我金貨ニ換算シテ四百八十八萬圓ニシテ明治六年八月ヨリ每年英貨拾萬磅宛ヲ支拂ヒ十五年八月ニシテ全ク償還ノ事トナレリ此資金ノ內金百四十六萬四千圓即チ英貨三十萬磅ヲ以テ東京橫濱間ノ鐵道ヲ築造シ其他ハ紙幣製造費地金銀買入等ニ支用セリ

第十起業公債 內國運輸ノ便ヲ開發シ農工百般ノ事業ヲ發達伸張シ併テ當時創設ニ係ル國立銀行ノ事業ヲ發揚スルノ目的ヲ以テ明治十一年ニ額面千二百五十萬圓ヲ限リ内外人民ヨリ募集セシモノナリ其金額ハ京都大津間敦賀大垣間鐵道清水越新道那須原水道猪苗代疎水等ノ事業ニ支出シタルモノナリ

起業公債

中山道鐵道公債

第十一中山道鐵道公債 此公債ノ目的ハ上州高崎ヨリ濃州大垣ニ至ルマテ中山道ニ沿ヒ鐵道ヲ敷設シ江州長濱ヨリ大垣ニ至ルノ線路ニ聯絡シ以テ東西兩京ヲ貫通スルニアリ而シテ其發行高ハ二千萬圓ニシテ時ニ明治十六年十二月ナリ

海軍公債

第十二海軍公債 海軍擴張ノ爲メ募集スルモノナリ明治十九年六月勅令第四十七號ヲ以テ海軍公債條例ヲ發行セリ此公債ハ五分利付無記名證書ニシテ證書發行ノ總額ヲ壹千七百萬圓トシ三ヶ年ニ漸次之ヲ發行スルモノトシ元金ハ證書發行ノ年ヨリ三ヶ年据置其翌年ヨリ向フ三十ヶ年間ニ抽籤ヲ以テ償還スルコト、セリ明治十九年ヨリ全二十一年ニ至ル間ニ造船費七百七十萬圓余海軍水雷費九十六萬圓余吳鎮守府設立費百五十四萬圓佐世保鎮守府設立費七十三萬圓余ヲ支出セリ

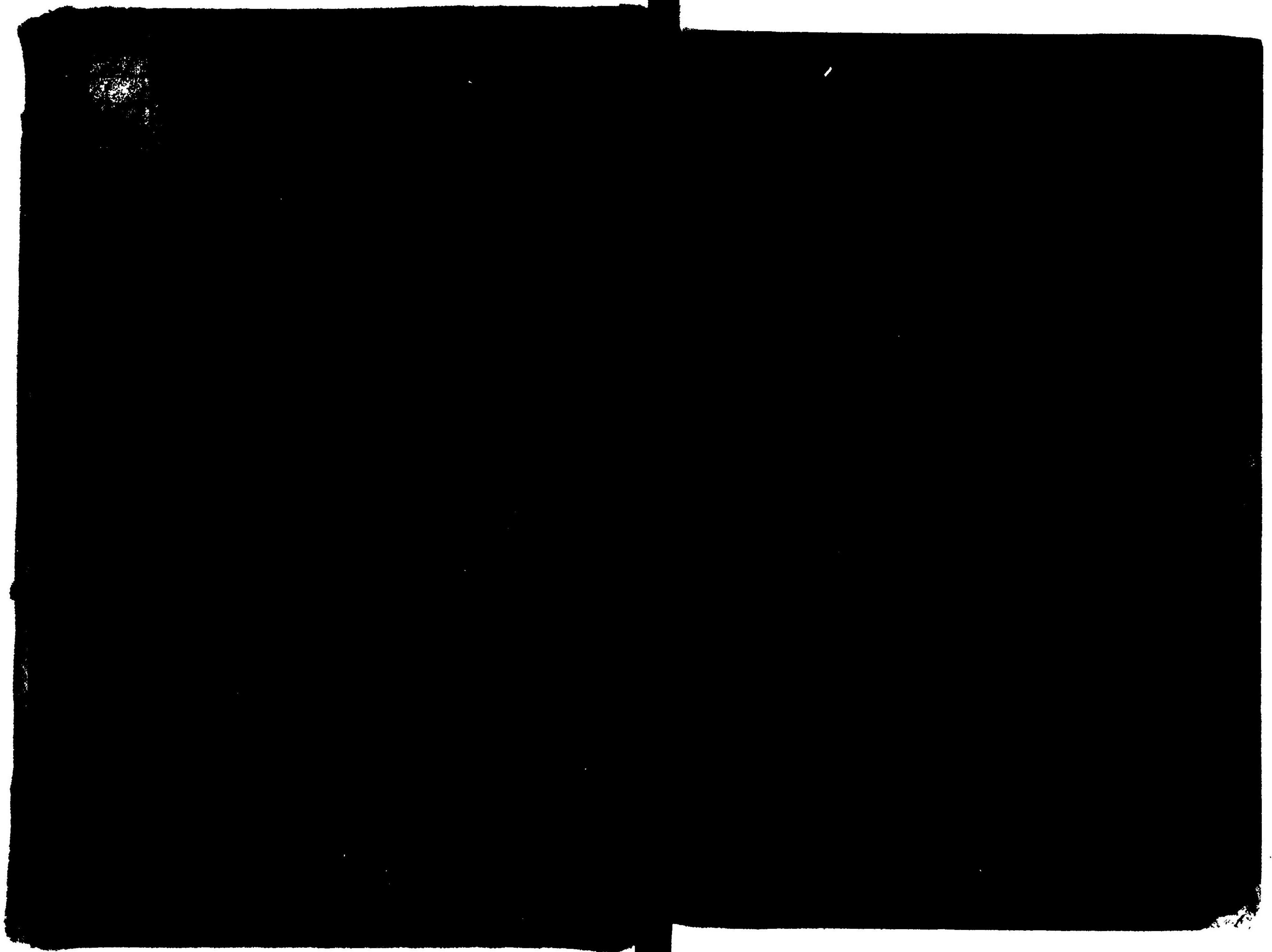
第十三整理公債 整理公債ハ従前發行ノ六分以上利付ノ內國

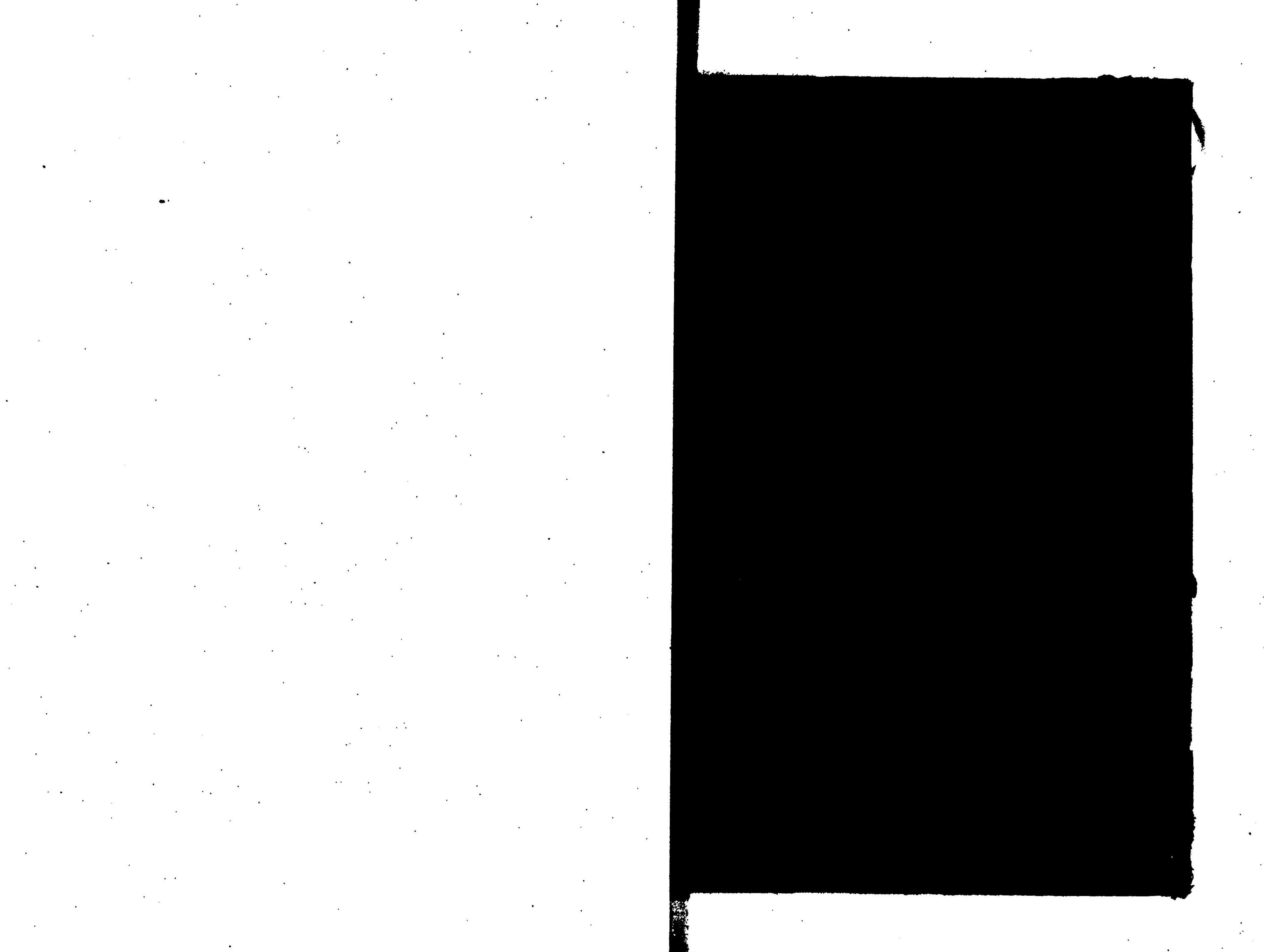
債ヲ償還整理スルカ爲メ壹億七千五百萬圓ヲ限リ大藏大臣財
政ノ使ヲ計リ漸次之ヲ募集スル者ナリ而シテ其業未タ半ヲ終
ヘズト雖モ此業タル一方コハ國庫ノ費用ヲ減シ以テ民庶ノ負
擔ヲ輕フシ一方ニハ各種ノ公債ヲ統一シ以テ國債ヲ整理スル
ノ好機會ヲ與フルモノナリ五分利付ニシテ無記名ヲ原則トシ
元金ハ募集ノ年ヨリ五ヶ年据置其翌年ヨリ尙フ五ヶ年間ニ
抽籤法ヲ以テ償還スルコト、セリ明治十九年ヨリ全廿一年ニ
至ルマデニ已ニ三回ノ募集ヲナシ其額面貳千貳百五拾萬圓ヲ
發行セリ示后益整理公債證書ヲ發行シテ舊時ノ諸公債ヲ償還
シ悉ク借換ノ業ヲ終ルニ至ラバ毎年國庫ノ費用ヲ減シ人民ノ
負擔ヲ輕フスルコト實ニ大ナルベキナリ

以上述ヘ來リタル所ハ國債論ニ關スル諸般原理ノ一斑ヲ示シ
タルニ過キス

其詳細ノ點ニ至リテハ猶ホ言フ可キ所少ナカラズト雖モ紙數
限リアリテ充分其漏ヲ拾フ能ハザルガ故ニ予ハ今暫ク筆ヲ
此ニ擱キ他日機會ノ在ルアラバ重テ之ヲ補述ス可シ

國債論終





21

258

040533-000-2

21-258

国債論

織田 一/著

[M23.1?]

BDE-0154



